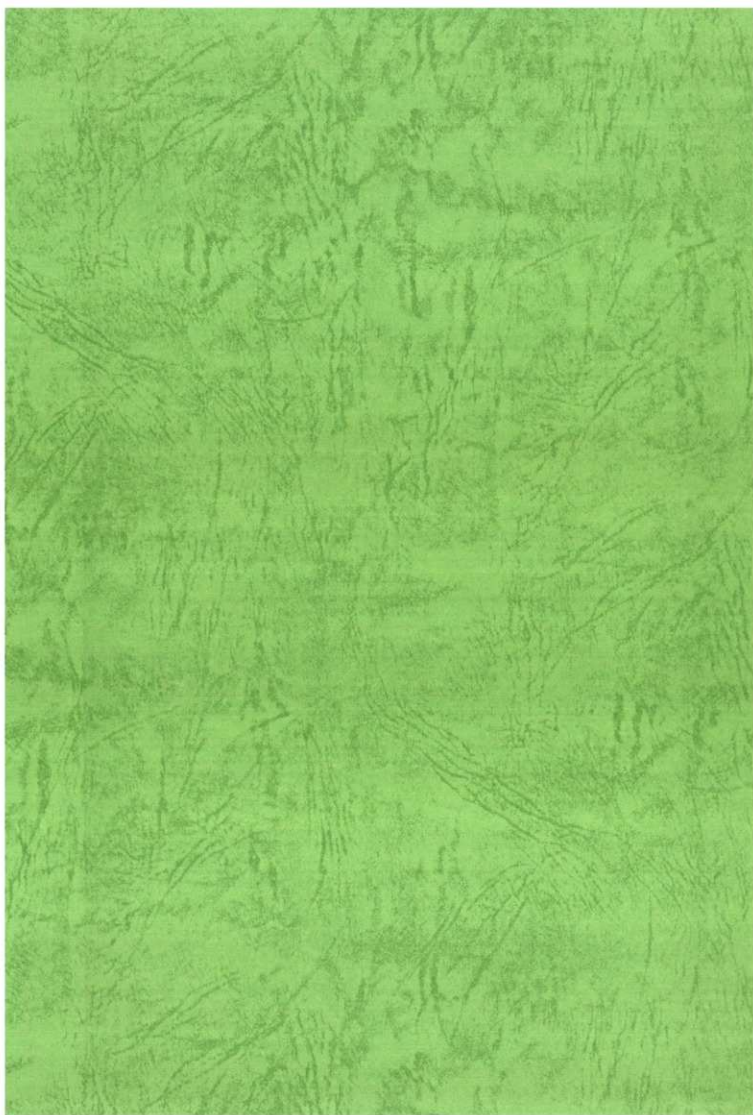


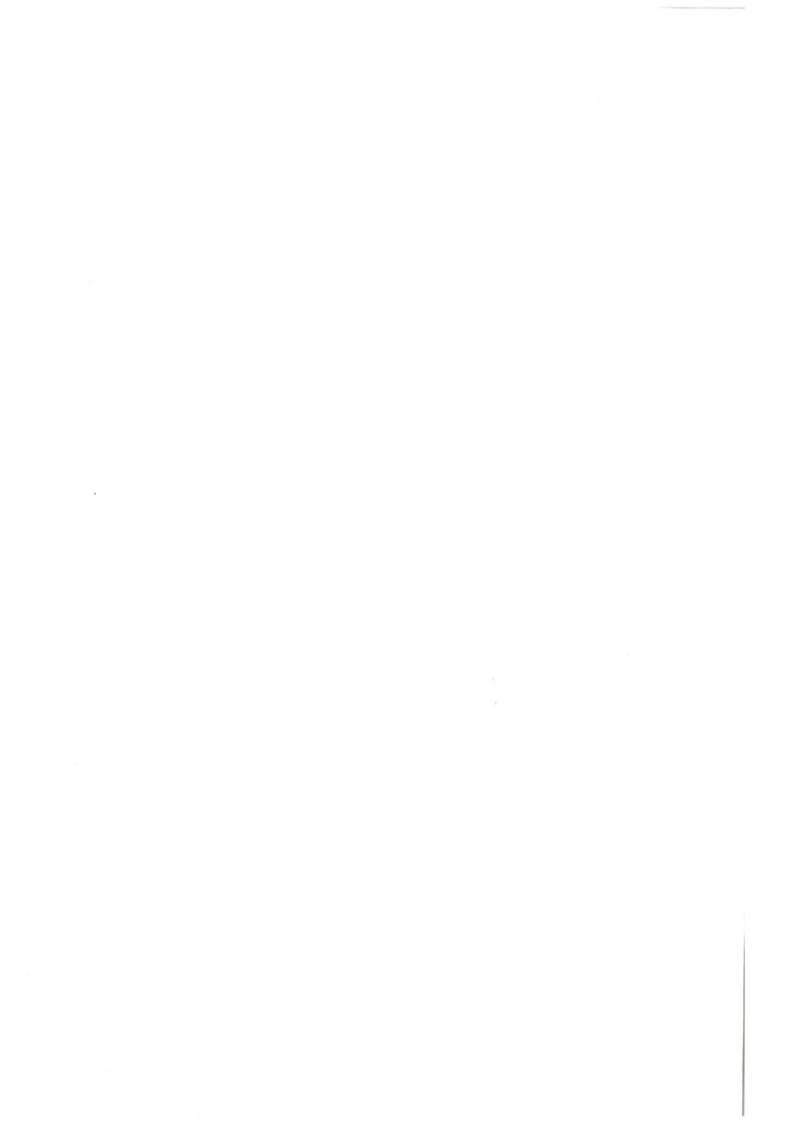
—平成30年度発掘調査報告—

埋蔵文化財発掘調査報告書

2020年9月

福崎町教育委員会





—平成30年度発掘調査報告—

埋蔵文化財発掘調査報告書

2020年9月

福崎町教育委員会

あ い さ つ

福崎町では、毎年開発等に伴って遺跡の発掘調査を行っており、これまで知られていなかった貴重な文化財が次々と発見されています。これら遺跡は、地域の歴史を知るうえでかけがえのない資料であり、町民共有の財産です。

このたび、平成30年度の発掘調査の結果をまとめ、報告書を発行いたしました。広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にあたり工事関係者をはじめ多くの方々に、ご理解とご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。

令和2年9月

福崎町教育委員会
教育長 高橋 渉

例 言

1. 本書は、平成30年度に福崎町教育委員会が行った発掘調査報告書である。
2. 調査は、福崎町教育委員会が主体となり実施した。経費は、国庫補助金である。
3. 報告書は同じく補助金を充て福崎町教育委員会が主体となり実施した。
4. 調査体制は以下の通りである。

調査・管理事務局

教 育 長	高寄 十郎 (平成30年度)
教 育 長	高橋 渉 (令和2年度)
社会教育課長	大塚 久典 (平成30年度)
社会教育課長	松田 清彦 (令和2年度)
社会教育課副課長	森 公宏
社会教育課課長補佐	中塚 喜博 (平成30年度)
社会教育課係長	藤原 元 (令和2年度)
社会教育課主査	長谷川幸子
社会教育課主査	樋口 碧

整理作業・報告書担当

社会教育課主査	樋口 碧
埋蔵文化財専門員	渡辺 昇
整理作業員	梶 智美
整理作業員	福永 明子
整理作業員	原井川奈美
整理作業員	常陰ひとみ

5. 本書に使用した方位は基本的に磁北で、標高は福崎町設定の基準点を使用している。
6. 本書に掲載した図のうち遺跡位置図は福崎町発行の都市計画図(1/10,000)を、調査区配置図は福崎町都市計画図(1/2,500)を編集したものである。
7. 掲載する遺跡はすべて福崎町教育委員会が調査主体となり実施した。整理作業も同様である。
8. 執筆は樋口・渡辺が行い、編集は梶・福永・原井川・常陰の協力を得た。
9. 本報告に係る図面、写真、遺物等は、福崎町教育委員会にて保管している。
10. 調査・整理作業において多くの方々や機関にご指導・ご協力をいただきました。感謝します。

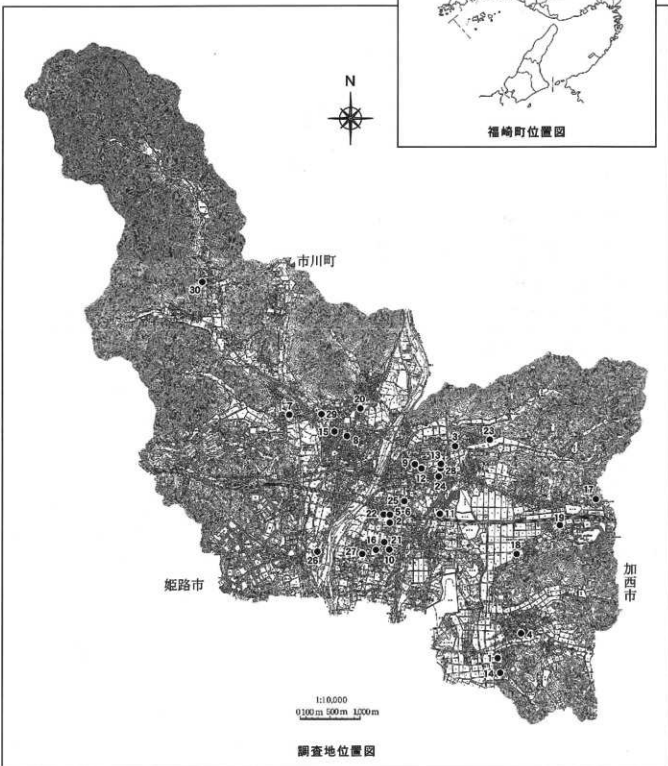
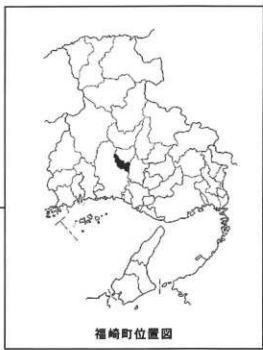
本文目次

あいさつ・例言

はじめに

平成30年度調査報告

1. 鍛冶屋遺跡第4次調査	1
2. 南田原条里遺跡第38次調査	11
3. 悟真院試掘調査	13
4. 八千種字前垣内試掘調査	16
5. 南田原字ナコザ試掘調査	18
6. 南田原条里遺跡第39次調査	22
7. 下々通遺跡第2次調査	26
8. 中溝遺跡2次調査	28
9. 西田原字上坂試掘調査	31
10. 南田原条里遺跡第41次調査	34
11. 南田原字金垣内試掘調査	36
12. 西田原字西広岡試掘調査	39
13. 北野散布地第6次調査	41
14. 八千種字南ノ下試掘調査	43
15. 福田字前垣内試掘調査	46
16. 南田原条里遺跡第42次調査	48
17. 大貫字石引試掘調査	50
18. 大貫字小角試掘調査	52
19. 下遺跡第1次調査	54
20. 清水遺跡第3次調査	57
21. 南田原条里遺跡第43次調査	59
22. 南田原条里遺跡第44次調査	61
23. 加治谷越前遺跡第3次調査	63
24. 東田原字掛上がり試掘調査	65
25. 西田原辻ノ前遺跡第4次調査	67
26. 西治字市川端試掘調査	69
27. 南田原条里遺跡第45次調査	71
28. 北野散布地第7次調査	73
29. 福田字中垣内試掘調査	75
30. 金剛城寺試掘調査	87



1:10,000
0 100m 500m 1,000m

調査地位置図

平成30年度 埋蔵文化財調査一覧

	遺跡名	所在地	種別	調査期間	時代	遺構	遺物	調査面積
A	西田原上野田遺跡 (第4次)	福崎町西田原字 上野田	本発掘	4月3日～13日 (9日)	弥生～ 中世	溝・土坑	弥生土器 須恵器	410㎡
A	西光寺中遺跡 (第1次)	福崎町南田原字 西光寺	本発掘	4月10日 (1日)	中世	溝	須恵器	21㎡
1	鍛冶屋遺跡 (第4次)	福崎町八千種字 代ノ岡	本発掘	4月16日～19日 (4日)	平安世	溝・土坑 礎跡	須恵器	93.1㎡
2	南田原条里遺跡 (第38次)	福崎町南田原字 大塚	確認	4月25日 (1日)	弥生 奈良	なし	なし	1か所 4㎡
3	悟真院試掘	福崎町東田原字 妙徳山	試掘	5月9日、10日 (2日)	—	溝	近代 陶磁器	2か所 14.5㎡
4	八千種字前垣内 試掘	福崎町八千種字 前垣内	試掘	5月29日 (1日)	—	なし	土師器	1か所 4㎡
5	南田原字ナコザ 試掘	福崎町南田原字 ナコザ	試掘	5月29日 (1日)	—	土坑	須恵器 弥生土器	1か所 4㎡
6	南田原条里遺跡 (第39次)	福崎町南田原字 ナコザ	本発掘	6月4日～6日 (3日)	古墳 奈良	溝・土坑 ピット	須恵器	42㎡
B	南田原条里遺跡 (第40次)	福崎町南田原字 ナコザ	本発掘	6月11日 ～8月1日 (28日)	奈良	掘立柱建 物・溝	須恵器 製埴土器	802㎡
7	下々通遺跡 (第2次)	福崎町高岡字 大浦	確認	6月13日 (1日)	中世	なし	須恵器	2か所 8㎡
8	中溝遺跡 (第2次)	福崎町福田字 中溝	試掘 確認	6月13日 8月20日 (2日)	弥生 奈良 中世	溝	土師器	2か所 8.3㎡
9	西田原字上坂 試掘	福崎町西田原字 上坂	試掘	7月10日 (1日)	中世	溝	須恵器	3か所 12㎡
10	南田原条里遺跡 (第41次)	福崎町南田原字 東田	確認	7月24日 (1日)	弥生 奈良	なし	土師器	2か所 8㎡
C	中溝遺跡 (第3次)	福崎町福田字 中溝	本発掘	8月2日～17日 (10日)	弥生 奈良	溝・ピット 土坑	須恵器 弥生土器	250㎡
C	上坂遺跡 (第1次)	福崎町西田原字 上坂	本発掘	8月20日 ～9月27日 (24日)	弥生～ 中世	竪穴住居 溝・ピット	須恵器 弥生土器	1,136㎡
11	南田原字金垣内 試掘	福崎町南田原字 金垣内	試掘	8月22日 (1日)	—	なし	なし	5か所 20㎡
12	西田原字西広岡 試掘	福崎町西田原字 西広岡	試掘	9月12日 (1日)	—	なし	なし	1か所 4㎡
13	北野散布地 (第6次)	福崎町西田原字 向下広岡	確認	9月12日 (1日)	—	なし	なし	2か所 8㎡
14	八千種字南ノ下 試掘	福崎町八千種字 南ノ下	試掘	9月18日 (1日)	平安	土坑	須恵器	2か所 8㎡
15	福田字前垣内 試掘	福崎町福田字 前垣内	試掘	9月26日 (1日)	—	なし	なし	1か所 4㎡

16	南田原条里遺跡 (第4 2次)	福岡町南田原字 岸ノ上	確 認	10月10日 (1日)	弥 生 良	なし	なし	1か所 4㎡
17	大貫字石引試掘	福岡町大貫字 石引	試 掘	10月15日 (1日)	—	なし	なし	2か所 8㎡
18	大貫字小角試掘	福岡町大貫字 小角	試 掘	10月15日 (1日)	—	なし	なし	1か所 4㎡
19	下遺跡 (第1次)	福岡町大貫字 下り、和田	確 認	10月23日 (1日)	中 世	なし	なし	4か所 16㎡
20	清水遺跡 (第3次)	福岡町山崎字 清水	確 認	11月14日 (1日)	古 墳	なし	なし	1か所 4㎡
21	南田原条里遺跡 (第4 3次)	福岡町南田原字 川田	確 認	11月14日 (1日)	弥 生 良	ビット	なし	1か所 4㎡
22	南田原条里遺跡 (第4 4次)	福岡町南田原字 東角	確 認	11月19日 (1日)	弥 生 良	なし	なし	1か所 4㎡
23	加治谷越前遺跡 (第3次)	福岡町東田原字 前田	確 認	12月4日 (1日)	弥生～ 中世	なし	須恵器	1か所 4㎡
24	東田原字 掛上がり試掘	福岡町東田原字 掛上がり	試 掘	12月4日 (1日)	—	なし	なし	1か所 2㎡
25	西田原辻ノ前跡 (第4次)	福岡町西田原字 辻ノ前	確 認	12月14日 (1日)	中 世	なし	なし	1か所 4㎡
26	西治字市川端 試掘	福岡町西治字 市川端	試 掘	1月5日 (1日)	—	なし	なし	2か所 8㎡
27	南田原条里遺跡 (第4 5次)	福岡町南田原字 前田	確 認	1月21日 (1日)	弥 生 良	なし	須恵器	1か所 4㎡
28	北野散布地 (第7次)	福岡町西田原字 向下広岡	確 認	1月21日 (1日)	弥生～ 中世	ビット	なし	1か所 4㎡
C	北野散布地 (第8次)	福岡町西田原字 向下広岡	本発掘	2月12日、13日 (2日)	弥生～ 中世	溝・ビット	弥生土器 土師器 須恵器	23㎡
29	福田字中垣内 試掘	福岡町福田字 中垣内	試 掘	2月18日～22日 (5日)	古 代	土坑 ビット	土師器 須恵器 瓦	2か所 15.5㎡
30	金剛城寺試掘	福岡町出口字 小屋垣内	試 掘	3月12日 (1日)	—	なし	なし	1か所 4㎡

№のアルファベット遺跡は、本書には掲載していない。Aは町報告18、Bは町報告16を参照されたい。
Cは近年中に刊行予定である。

はじめに

調査の方法

基本的に機械を使用できる場所は0.1 m級の重機を使用して調査を行った。2×2 mのグリッドを基本としたが、遺跡の種類や現状の地形によってトレンチ調査を実施した地点・遺跡もある。調査対象地が狭小な場合、1 m幅とした地点・遺跡もある。

掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行ったのち、埋め戻し作業も行っている。

地理的環境

福岡町は中国山地の東端で、兵庫県中央部の市川中流域に位置している。東西10.4 km、南北12 kmの45.82 km²の面積である。町域中央に南北に市川が流れ、東西には山崎安富断層沿いに中国自動車道が通っている。市川中流域に狭くなっている箇所があり、その間を福岡盆地と呼称している。南側は飾磨郡と神崎郡を分ける姫路市砥堀で、北は市川町と福岡町の町境である福岡町山崎である。現在の行政域は福岡町と姫路市に分かれているが旧郡は神崎郡である。町域は市川とその支流である七種川によって形成された段丘面が見られる。山裾には麓斜面と扇状地が広がり、谷部は谷底平野と氾濫原になっている。高岡福田地区のほか整備地区で一部扇状地がある以外は、ほとんどの調査地点は段丘面から氾濫原・谷底平野に位置している。

平成30年度調査した遺跡・調査地点では南田原条里遺跡・南田原桶川遺跡が氾濫原・谷底平野に、他は段丘面に位置している。段丘面でも鍛冶屋遺跡は中位になるが、他は低位の段丘になる。

歴史的環境

福岡町内では旧石器時代から近世の遺跡の存在が知られている。旧石器時代のナイフ形石器が南田原桶川遺跡・南田原条里遺跡・西広畑遺跡・大門遺跡から散発的に出土している。縄文時代になると、草創期の有舌尖頭器が南田原の西光寺で採集され、前期の土器は西大貫遺跡・加治谷大垣内遺跡で、後期の土器は西田原穴田遺跡・加治谷藪下五反畑遺跡で出土している。遺構は落とし穴が八千種庄北扶遺跡・八千種庄古屋敷遺跡・八千種庄春日遺跡の春日山西麓でまとまって確認されている。後期と思われる。晩期になると大門岡ノ下遺跡で竪穴住居が検出されており、石棒が出土している。

弥生時代前期の遺構の様相は不明であるが、中期になると遺跡数は増加する。南田原長目遺跡、上大明寺遺跡、北野寺西遺跡、西広畑遺跡、南田原条里遺跡、玉屋遺跡、西治下代ノ下モ遺跡などがある。朝谷遺跡、宮山遺跡からは壺棺が出土している。

古墳時代の集落遺跡は、上大明寺遺跡、加治谷藪下五反畑遺跡、西治下代ノ下モ遺跡、林谷遺跡があり、いずれも竪穴住居が検出されている。加治谷藪下五反畑遺跡、林谷遺跡のものはカマドを伴う。古墳は、高橋古墳群が最古で古墳時代中期の築造である。箱式石棺群で3号墳、4号墳の2基の調査がされており、鉄剣や鉄鏃が出土したと伝わる。相山古墳は町内で唯一埴輪が出土している。円筒埴輪を中心に、人物埴輪と思われるものも確認されている。後期になると、それまで丘陵上に築かれていた古墳は、山裾や平野部に増加する。妙徳山に所在する妙徳山古墳は、神崎郡でも最大級の石室を有する円墳である。谷川の南岸には東広畑古墳や東新田古墳などが所在し、いずれも鉄剣、鉄刀、馬具、鉄鏃などの鉄製品のほか耳環、勾玉、管玉などの装身具が出土している。

律令制が敷かれると、福岡町域は神前郡となる。南田原条里遺跡からは役所の遺構と考えられる大型の獨立柱建物確認されている。高岡地区の矢口遺跡からは帯金具が出土しており、郡衙関連遺構が所在していた可能性がある。福田無量寺跡では、福田地区固軍倉の解体工事中に多量の瓦が検出された。礎石等、遺構は検出されていないが、字名が無量寺であることから寺院の可能性もある。

中世になると福岡町内には田原荘、高岡荘、藤山荘が成立する。市川町、加西市、福岡町にまたがって高峰山城、八千種地区に春日山城が築かれる。

1. 鍛冶屋遺跡（第4次）（本調査）

所在地 神崎郡福岡町八千種字代ノ岡3618番5
事業名 個人住宅新築工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 93.1㎡
調査期間 平成30年4月16日（月）～19日（木）



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成30年2月1日（木）付けで工事主体者から、周知の埋蔵文化財包蔵地内における個人住宅建設にかかる第93条の発掘届出が提出された。それを受けて平成30年2月7日（水）に確認調査を行ったところ、建物建築部分から遺構が確認された。

その結果は福岡町埋蔵文化財調査報告17で報告しているが、調査の結果に基づき工事主体者と協議を行ったところ、工事の影響を受ける建物部分について、国庫補助金を充てて町教育委員会が主体となり調査を行うこととなった。平成30年4月16日（月）から19日（木）に記録保存のための本発掘調査を行った。埋め戻しも行った。

○調査の方法

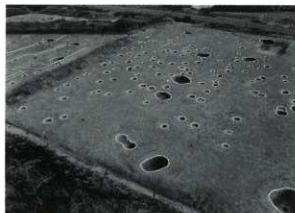
調査対象地区の現状は、畑地であった。個人住宅建設予定地南北9.8m、東西9.5mを調査した。掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川の支流である平田川東岸に位置し、地形区分上は高位段丘面に位置付けられる。

鍛冶屋遺跡は段丘面に広がる遺跡で古代から中世にかけての遺物が採集されている。北側の段丘上には八千種庄古屋敷遺跡・八千種庄北扶遺跡が存在しており、平成9年度にほ場整備事業に伴って発掘調査が実施され、縄文時代から中世までの複合遺跡であることが分かった。なかでも多くの縄文時代の落とし穴遺構が確認されたことが特徴である。

西側の段丘面上には昭和52年と早い段階に、弥生時代の方形周溝墓が調査された玉屋遺跡がある。



八千種庄北扶遺跡落とし穴遺構検出状況



八千種庄古屋敷遺跡
落とし穴遺構から出土した石匙



1	鍛冶屋遺跡	2	玉屋遺跡	3	八千種庄下野田遺跡	4	八千種庄上野田遺跡
5	八千種庄京田遺跡	6	八千種庄春日遺跡	7	八千種庄北挾遺跡	8	八千種庄古屋敷遺跡
9	春日山城跡 (飯盛山)	10	姥懐古墓				

鍛冶屋遺跡周辺遺跡地名表

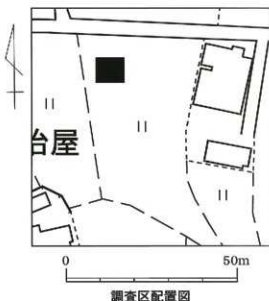
○調査の概要

①遺構

層序は、第1層は耕土、第2層はオリブ褐シルト質粗砂（黄褐色土含む）、第3層はにぶい黄褐シルト質粗砂（黄褐色土含む）、第4層は暗灰黄シルト質粗砂（黄褐色土含む）、第5層は暗オリブ褐シルト質粗砂、第6層は暗灰黄シルト質細砂（黄褐色土含む）、第7層は暗灰黄シルト質細砂、第8層は地山で明黄褐シルトである。

第5層上面で溝状遺構（SD）6条、土坑（SK）2基、ピット（SP）3基を検出した。

SD01は南北方向を長軸とする。長さ1.65m、幅0.24m、深さ0.05mである。須恵器及び土師器片が出土したが、小片であり時期は不明である。SD02は長さ0.26m、幅0.1m、深さ0.05mである。SD03は長さ0.35m、幅0.11m、深さ0.07mである。SD04は長さ0.5m、幅0.16m、深さ0.05mである。SD09、SD10はSD01～04の南に位置する。



調査区配置図

SD09は長さ0.3m、幅0.12m、深さ0.09m、SD10は長さ0.25m、幅0.13m、深さ0.06mである。いずれも浅く、幅も狭いことから耕作痕と思われる。

SK05は長軸を南北にする楕円状の遺構である。長さ3.1m、幅1.69m、深さ0.08mで須恵器片及び土師器片が出土している。SK05の西側で暗渠が南北方向に走っており、SK05と切り合う関係にある。SK05の方が新しい。SK08も長軸を南北にする楕円状の遺構で、形は壺である。長さ2.14m、幅0.8m、深さ0.12mで、須恵器片及び土師器片が出土している。

SP14は直径0.19m、深さ0.03mである。SP06、SP07は直径0.4m、深さ0.08mである。

第5層中からも土器片が出土することから、さらに掘り下げを行った。第5層から0.3m程度掘り下げたところで地山と考えられる明黄褐色土層が確認されたため掘削を停止し、人力精査を行った。

調査区の東側からピット1基、南北方向の櫛列(SA)、櫛列の一部を横切るように溝状遺構が1条、土坑1基が確認された。

SP15は直径0.35～0.39m、深さ0.13mである。SK11は南北1.2m、東西0.51m、深さ0.06mで、須恵器片、土師器片が出土した。また、杭と思われる木片も確認されている。SD13は南北2.55m、東西0.38m、深さ0.06mで東西方向に走っており、調査区の東へ延びている。SK11とSD13は切り合い関係にあり、SK11の方が新しい。

SA12は13基のピットからなる。柱穴が2基ずつ1組になって南北方向に並んでいることから、板を挟んでいた可能性がある。柱穴間には0.35m～0.65mの幅がある。ピット番号は北から順に付した。

単位：m			
ピット番号	大きさ	深さ	出土遺物
1	0.32×0.25	0.32	—
2	0.35×0.27	0.1	—
3	0.32×0.24	0.07	—
4	0.32×0.27	0.06	—
5	0.32×0.26	0.07	—
6	0.33×0.22	0.1	—
7	0.28×0.20	0.09	—
8	0.30×0.17	0.06	—
9	0.31×0.16	0.05	—
10	0.30×0.17	0.05	—
11	0.35×0.19	0.06	—
12	0.28×0.27	0.06	—
13	0.25×0.22	0.05	—

SA12 ピット大きさ一覧

②遺物

遺物は第2層～第7層から確認されており、コンテナ1箱分と少ない。図化したのは24点である。

1は土師器鍋の口縁部であり、外面にタタキ痕がみられ、煤が付着している。2は土師器皿である。3は土師器甕の口縁部で端部をつまみだす。4は土師器壺の口縁部で、端部を水平方向につまみだす。5は土師器高坏である。口縁部は稜線をもち、垂直に立ち上がる。端部は丸くつまみ上げる。

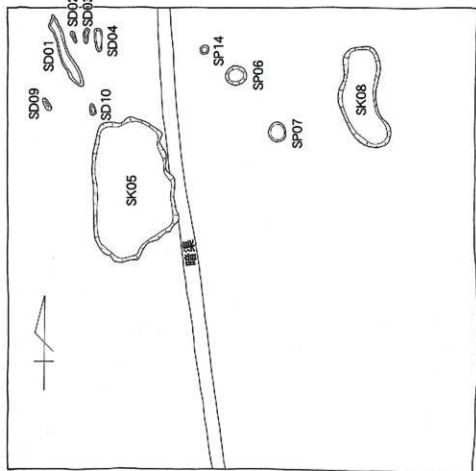
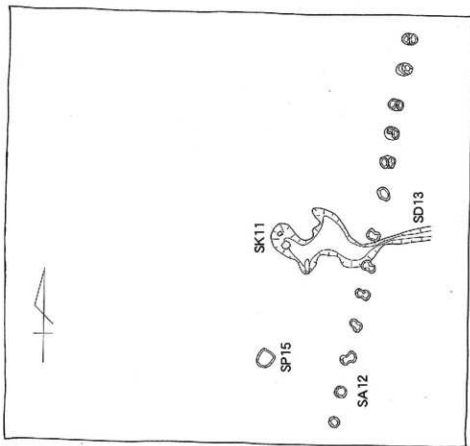
6、7は須恵器杯である。ロクロ成形で、6には自然軸が付着しており、7の口縁部には重ね焼きの痕跡が残る。8～19は須恵器碗でロクロ成形である。8、9は口縁部である。外傾する体部から口縁部が反り気味に端部を尖らす。10は坏の体部で墨書がみられるが、判読はできない。11～16、18は高台付きの底部で、糸切り痕がある。17のみヘラ切りで、底部は丸みがある。19は小片のため底部調整は不明である。21、22は須恵器鉢の口縁部である。21はくの字状に屈曲しており、22は突帯状に肥厚している。23は須恵器壺の頭部である。24は須恵器甕の口縁部で、頸部付近から外反し、端部を丸くおさめる。

いずれも中世ころのものと思われる。

○まとめ

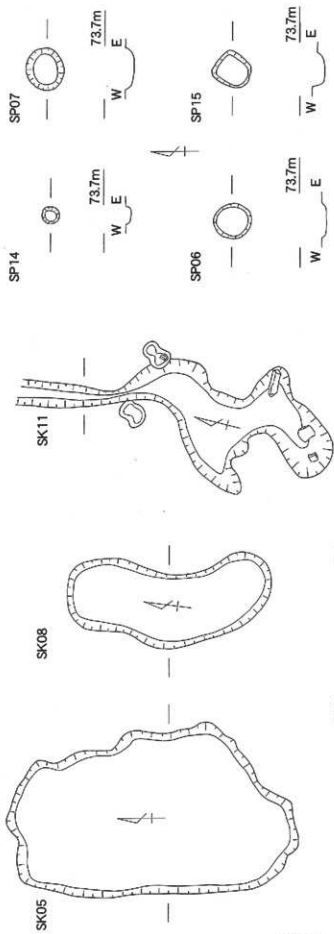
鍛冶屋遺跡では、今回の調査以前に2回の確認調査が行われている。平成29年度に遺跡の東端で第2次調査を実施したが、遺構、遺物ともに確認されていない。平成30年度に遺跡の南西方向で行われた試掘調査で、ピット状遺構と須恵器片が検出されたことから、遺構の範囲を拡張している。出土した須恵器の時期は古代から中世であり、鍛冶屋遺跡内における遺構の様相が明らかになりつつある状況である。

- 1 オリーブ横(2.5Y 4/3)シルト質粗砂(緑土)
- 2 オリーブ横(2.5Y 4/4)シルト質粗砂 黄褐色土(10YR 5/8)含む
- 3 にふい黄横(10YR 4/3)シルト質粗砂 黄褐色土(10YR 5/8)含む
- 4 暗灰質(2.5Y 4/2)シルト質粗砂 黄褐色土(10YR 5/8)含む
- 5 暗オリーブ横(2.5Y 3/3)シルト質粗砂
- 6 暗灰質(2.5Y 4/2)シルト質粗砂
- 7 暗灰質(2.5Y 4/2)シルト質粗砂 黄褐色土(10YR 5/8)含む
- 8 明黄横(2.5Y 6/6)シルト

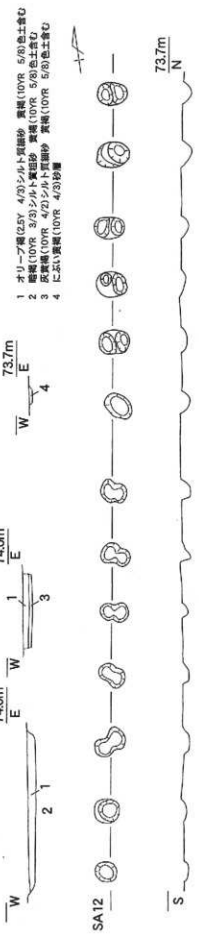


全体図





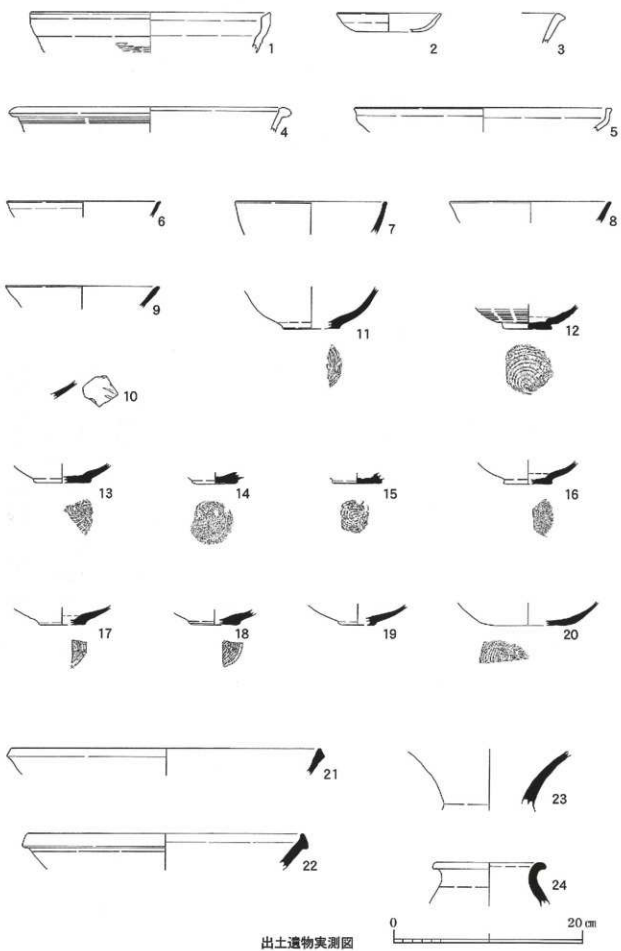
仕舞図



- 1 オリーブ層(2.5Y 4/3)シルト質細砂 黄緑(10YR 5/8)色土含む
- 2 暗緑(10YR 3/3)シルト質粗砂 黄緑(10YR 5/8)色土含む
- 3 灰黄緑(10YR 4/2)シルト質細砂 黄緑(10YR 5/8)色土含む
- 4 におい黄緑(10YR 4/3)砂層



遺構図



出土遺物実測図

今回の調査は、第2次調査の北西側に位置する。第5層及び第8層（地山）で遺構が確認され、包含層から中世のものと思われる須恵器片が採集された。調査地点は遺跡の北端であるが、第5層上の遺構及び第8層で確認された柵列も北側に延びていると考えられる。当遺跡のほとんどは、高位段丘面にあたるが、遺跡内でも遺構の過密があるようだ。現状では、遺跡のほぼ中央にあたる今回の第3次、第4次調査地点と、遺跡の南西隅にあたる地点で遺構が確認されているが、今後も遺跡周辺の開発等の際には注意が必要である。

報告 番号	種別	器種	遺構	法量(cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	土師器	鍋	SK05	(25.0)	(4.4)	—	ヨコナデ・タタキ	ヨコナデ	外面にスス付着
2	土師器	皿	包含層	(11.0)	2.0	(7.0)	ヨコナデ	ヨコナデ	
3	土師器	甕	包含層	—	(3.2)	—	ヨコナデ	ヨコナデ	
4	土師器	壺	包含層	(29.6)	(2.8)	—	ヨコナデ	ヨコナデ	外面に沈着有
5	土師器	高杯	包含層	(27.0)	(2.5)	—	ヨコナデ	ヨコナデ	
6	須恵器	杯	包含層	(16.0)	(1.7)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	自然釉付着
7	須恵器	杯	包含層	(15.8)	(3.5)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	重ね焼き痕有
8	須恵器	椀	包含層	(17.0)	(2.2)	—	—	—	
9	須恵器	椀	包含層	(16.0)	(2.3)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	重ね焼き痕有
10	須恵器	椀	包含層	—	(3.1)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	墨書有
11	須恵器	椀	包含層	—	(4.4)	(6.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	底部糸切り
12	須恵器	椀	包含層	—	(2.6)	5.1	ロクロナデ	ロクロナデ	底部糸切り
13	須恵器	椀	SA12 P7	—	(2.1)	(6.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	底部糸切り
14	須恵器	椀	包含層	—	(1.2)	4.7	ロクロナデ	ロクロナデ	底部糸切り
15	須恵器	椀	包含層	—	(1.1)	(5.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	底部糸切り
16	須恵器	椀	包含層	—	(2.5)	(5.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	底部糸切り
17	須恵器	椀	包含層	—	(2.0)	(4.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	底部へら切り
18	須恵器	椀	包含層	—	(1.6)	(5.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	底部糸切り
19	須恵器	椀	包含層	—	(2.2)	(4.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	
20	須恵器	鉢	包含層	—	(2.6)	(9.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	底部糸切り
21	須恵器	鉢	包含層	(32.0)	(2.7)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	
22	須恵器	鉢	包含層	(28.4)	(3.8)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	
23	須恵器	壺	SK11	—	(6.0)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	
24	須恵器	甕	SK11	(11.2)	(4.7)	—	ロクロナデ	ロクロナデ	

遺物観察表



調査前（北東から）



機械掘削



SD01～SD04（南から）



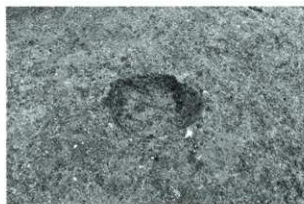
SK05（西から）



SK08（南から）



暗渠状況（南から）



SP06（南から）



SP07（南から）



第5層上面全景（南から）



作業風景



下層機械掘削



西壁



SA12検出状況（北から）



SA12完掘状況（北から）



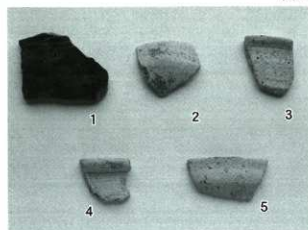
SA12P8遺物出土状況（北から）



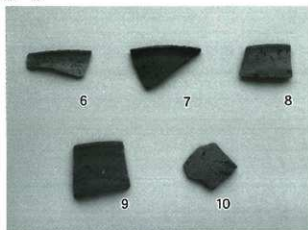
SK11土器出土状況（西から）



出土土器一括



出土土師器



出土須恵器口縁部



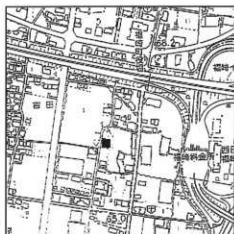
出土須恵器底部



出土須恵器口縁部

2. 南田原条里遺跡 (第38次)

所在地 神崎郡福崎町南田原条大塚3035番1
事業名 個人住宅新築工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 4㎡
調査期間 平成30年4月25日(水)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成30年4月16日(月)付けで、工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における個人住宅新築工事にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成30年4月25日(水)に確認調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は高位氾濫原に位置付けられる。

南田原条里遺跡は開発により近年調査件数が増加している地点である。弥生時代の溝や旧河道、古代のピットなどが検出されており、弥生時代の土器、石包丁等が出土している。また、奈良時代の掘立柱建物も検出されており、柱穴の大きさや稜角が出土していることなどから役所的な遺構として位置付けられている。

○調査区の概要

G1

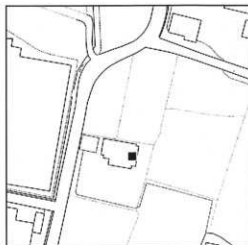
建物建設予定地ほぼ中央にグリッドを設定した。第1層は表土、第2層はオリーブ褐シルト質粗砂、第3層は黄褐シルト質粗砂、第4層は黄灰シルト質極細砂、第5層は灰シルト質細砂で地山である。第4層から須恵器が1片出土しているが、流木も同じ土層から確認されていることから、二次的移動のものと思われる。

遺構は確認されなかった。

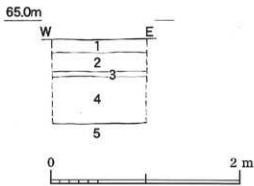
○まとめ

今回の調査では、明確な遺構は確認されず、安定した遺構面も確認されなかった。調査地点は、氾濫原の旧流路中に位置すると考えられる。

道を挟んで西側の筆で行った第37次調査で奈良時代や平安時代の遺構、遺物が確認されていることから、周囲の開発等には注意が必要である。



グリッド配置図



土層図

- 1 暗オリーブ褐(2.5YR 3/3)シルト質細砂(表土)
- 2 オリーブ褐シルト質粗砂(2.5YR 4/4)
- 3 黄褐シルト質粗砂(2.5YR 5/6)礫含む
- 4 黄灰シルト質細細砂(2.5YR 4/1)
- 5 灰シルト質細砂(5Y 5/1)



調査区全景 (南西から)



作業風景



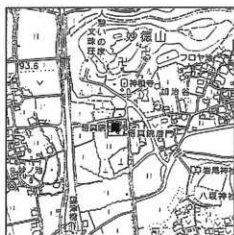
G1 (南から)



埋め戻し状況

3. 悟真院試掘

所在地	神奈川県福崎町東田原1905
事業名	悟真院建て替え工事
調査担当	樋口 碧、渡辺 昇
調査面積	14.5㎡
調査期間	平成30年5月9日(水)、10日(木)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

悟真院建て替え工事に伴う事前調整があり、工事予定箇所が寺院の敷地内であることから、過去の建て替えなどの痕跡等が発見される可能性があったため、平成30年4月20日(金)付けで悟真院住職から予備調査依頼書が提出され、協力を得て平成30年5月9日(水)、10日(木)に試掘調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川東岸に位置し、辻川と妙徳山から延びる丘陵斜面によって形成された段丘面にあたる。妙徳山神積寺は、開基が正暦2年(991)と伝えられている。悟真院は、神積寺の院の一つであり、江戸時代中期に建立された町指定文化財の悟真院唐門を有する。

○調査区の概要

T1

悟真院建て替え予定地中央に設定したトレンチで、第1層、第2層は碎石、第3層はオリーブ褐シルト質粗砂、第4層、第5層は褐シルト質中砂、第6層は地山で明黄褐シルト質中砂である。

第2層直下から礎石や柱穴が検出された。現代の悟真院のものと考えられたため、掘り下げを行った。第4、5層の掘り込みは、炭を含むことから過去に火災があったことが考えられる。遺物はいぶし瓦や近代陶磁器しか確認されなかった。

トレンチ東側の第5層の掘り込みは溝と考えられ、近代遺構に関連するものと考えられる。

T2

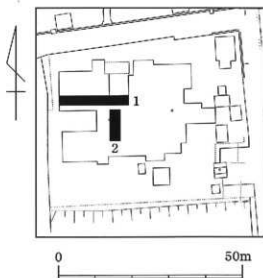
T1から溝が検出されたことから、南側に南北方向のトレンチを設定した。

第1層、第2層は碎石、第3層は黄褐シルト質粗砂、第4層は地山で明黄褐シルト質粗砂である。

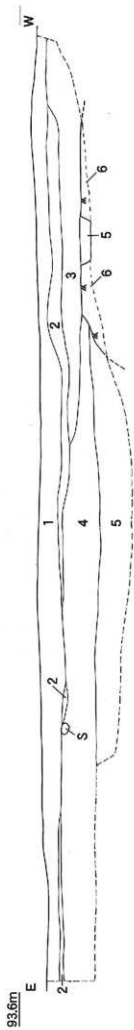
柱穴が1基確認されたが、遺物が伴わないこと、T1から柱穴が同じレベルで検出されたことから、近代のものと考えられる。

○まとめ

今回の調査で、現在の悟真院が建てられる前の建物の痕跡が確認されることが期待されたが、近世以前の遺物は確認されず、近代のものと思われる建物の痕跡が見つかっただけである。

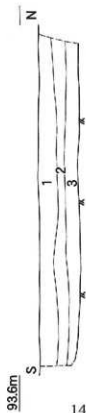


トレンチ配置図



トレンチ1

- トレンチ1
- 1 凝灰質(25Y 5/2)層 砂石層
 - 2 凝灰(25Y 3/2)層 砂石層(含煤の物)
 - 3 オリーブ層(25Y 4/6)シルト質粗砂
 - 4 層(10YR 4/6)シルト質中砂 灰岩心
 - 5 層(10YR 4/6)シルト質中砂 崩山土、炭燐む
 - 6 凝灰質(10YR 6/6)シルト質粗砂 崩山
- トレンチ2
- 1 凝灰質(25Y 5/2)層 砂石層
 - 2 凝灰(25Y 3/2)層 砂石層(含煤の物)
 - 3 凝灰(10YR 5/6)シルト質粗砂 崩山土含む
 - 4 凝灰層(10YR 6/6)シルト質粗砂 崩山



トレンチ2





調査地点（東から）



機械掘削



作業のようす



T1（南東から）



T1（南西から）



T2（南東から）



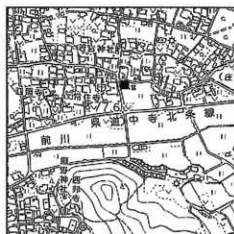
埋め戻し状況



埋め戻し後状況

4. 八千種字前垣内試掘

所在地 神崎郡福崎町八千種字前垣内2251番
 事業名 露天駐車場設置工事
 調査担当 渡辺 昇
 調査面積 4㎡
 調査期間 平成30年5月29日(火)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成30年5月9日(水)に福崎町農業委員会から農地転用に伴う協議があった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、周辺には八千種庄古屋敷遺跡や八千種庄北挾遺跡が存在し、段丘面上でも土器が採集されることから、遺跡の存在する可能性が考えられた。そのことから調査協力をお願いし、平成30年5月14日(土)付けで工事主体者から予備調査依頼書が提出された。それを受けて平成30年5月29日(火)に試掘調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川の支流である平田川東岸に位置し、地形区分上は高位段丘面に位置付けられる。

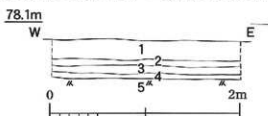
西側の段丘上に広がる八千種庄古屋敷遺跡・八千種庄北挾遺跡は古代から中世が中心であるが、弥生、古墳時代の遺物も出土している。八千種庄北挾遺跡は弥生時代前期の土器が見られる。両遺跡は平成10年度には場整備事業に伴って発掘調査が実施されている。南西側の段丘面上には鍛冶屋遺跡が広がっている。さらに西側には昭和52年と早い段階に調査された玉屋遺跡があり、弥生時代の方形周溝墓が調査されている。

○調査区の概要

事業予定地南側中央にグリッドを設定した。第1層は粘土、第2層は灰オリブシルト、第3層は黄褐色シルト質細砂、第4層は暗灰黄シルト質極細砂、第5層は黄褐色シルト質細砂である。第2層は床土で、第5層は地山である。第4層には地山土が多く混じっており、第5層地山には小礫を多く含んでいる。遺構は確認されなかったが、遺物は数点出土している。第3層と第4層から土師器が出土している。1は古代の土師器壺の口縁部で、2は中世の土師器鍋である。

○まとめ

今回の調査では、遺物は少量出土したが、安定した遺構面も確認されなかった。二次堆積の遺物と思われる。

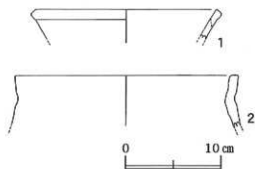


- 1 粘土
- 2 灰(7.5V5/2)オリブシルト
- 3 黄褐色(2.5V5/6)シルト質細砂
- 4 暗灰黄(2.5V5/2)シルト質極細砂(地山土含む)
- 5 黄褐色(2.5V5/6)シルト質細砂(地山、小礫多く含む)

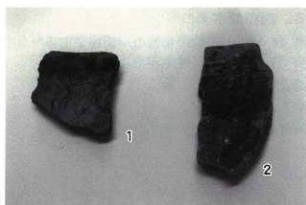
土層図



グリッド配置図



遺物実測図



出土土器



調査区全景 (北から)



機械掘削



作業風景



G1 (南から)



埋め戻し状況



埋め戻し後状況

5. 南田原字ナコザ試掘

所在地 神崎郡福岡町南田原字ナコザ3042番2
 事業名 個人住宅新築工事
 調査担当 渡辺 昇
 調査面積 4㎡
 調査期間 平成30年5月29日(火)



調査地点の位置(S=1/10,000)

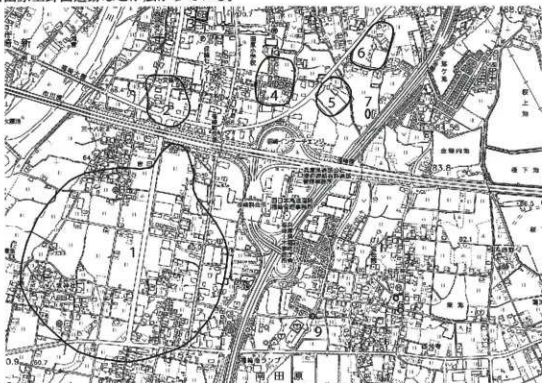
○調査に至る経過

平成30年5月15日(火)に福岡町まちづくり課から建築確認申請の供覧があり、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地である南田原条里遺跡の隣接地であることから、遺跡の存在する可能性が考えられた。そのことから調査協力を依頼し、平成30年5月28日(月)付けて工事主体者から、予備調査依頼書が提出された。それを受けて平成30年5月29日(火)に試掘調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は高位氾濫原に位置付けられる。

隣接する南田原条里遺構では弥生時代の溝や旧河道、古代のピット・土坑などが確認されている。弥生土器や石包丁も出土しており、弥生時代前期から中世にわたる複合遺跡である。中国自動車道の北側には中世の南田原桶川遺跡が存在する。東側の段丘上には西田原前田遺跡・西田原辻ノ前遺跡・西田原上野田遺跡などが広がっている。



1	南田原条里遺跡	2	南田原桶川遺跡	3	南田原堂ノ前遺跡	4	西田原辻ノ前遺跡
5	西田原前田遺跡	6	西田原上野田遺跡	7	西田原下野田遺跡	8	西光寺中遺跡
9	西光寺遺跡						

南田原条里遺跡周辺遺跡地名表

○調査の概要

G1

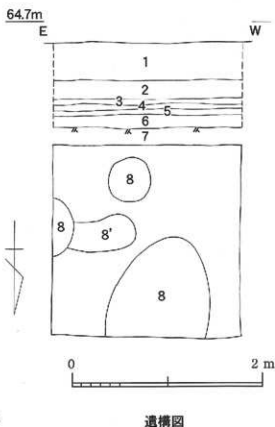
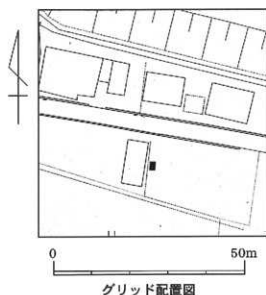
事業予定地西側中央に設定した。

第1層は盛土、第2層は円礫層、第3層はオリーブ黄シルト、第4層は黄灰細砂、第5層は暗灰黄シルト質細砂、第6層は暗灰黄シルト質極細砂、第7層はにぶい黄シルト質極細砂である。第1層は更地後の整地層、第2層は旧居宅の基礎に入れられた礫層で、第3・4層は第2層のバラスを入れるための整地層である。第4層にはマンガン層が認められる。第6層は包含層で奈良時代の遺物（須恵器・土師器）を濃密に含んでいる。第7層は地山である。地山面（第7層上面）で遺構が検出された。土坑・ピットを4基確認している。埋土は黒褐シルト質極細砂で炭も含んでいる。南壁沿いの遺構が最も大きく長さ1mを超える。他は径40cmと60cmのやや大きめのピットがある。他の1基は不定形で埋土の色調も淡くなっている。

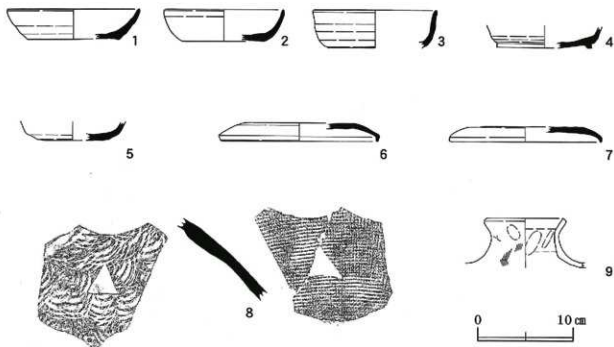
遺物は、9点図化した。1～5は須恵器杯で、1～4は貼り付け高台をもたないものである。1～3は口縁部がのこっており、端部を丸くおさめる。5は貼り付け高台をもち、内面に自然釉が付着している。底面はヘラ切りの痕跡が残る。6、7は須恵器杯蓋である。6の口縁部はくの字状に内側に曲がる。7の口縁端部も同様に内側に曲がるが、6に対し明瞭な屈曲点はない。8は須恵器甕の肩部で、内面に同心円タタキ、外面には格子目タタキが施されている。一部断面が肥厚している。土器片端部にユビナデの痕跡が看取される。9は弥生土器壺である。口縁部は内面に向かってつまみ上げる。肩部に大きく張りをもつようにみえるが、壺であるため形状は明らかでない。頸部下半から肩部にかけてハケメ、頸部上半にはユビオサエ痕がみられる。

○まとめ

今回の調査では、明瞭な遺構と濃密な包含層が確認された。遺物は古墳時代に遡る可能性のある土師器が1点出土しているが、それ以外は奈良時代の遺物に限られる。奈良時代の集落跡と考えられる。



- 1 盛土
- 2 円礫層
- 3 オリーブ黄(5Y6/4)シルト
- 4 黄灰(2.5Y5/1)細砂(マンガン含む)
- 5 暗灰黄(2.5Y4/2)シルト質細砂
- 6 暗灰黄(2.5Y5/2)シルト質極細砂
- 7 にぶい黄(2.5Y6/3)シルト質極細砂(地山)
- 8 黒褐(2.5Y3/2)シルト質極細砂



遺物実測図

番号	種別	器種	遺情	法量(cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	須恵器	杯	包含層	(14.0)	3.2	—	ロクロナデ	ロクロナデ	
2	須恵器	杯	包含層	(12.8)	3.3	(9.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	
3	須恵器	杯	包含層	(13.0)	4.0	(10.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	内外面摩滅
4	須恵器	杯	包含層	—	(2.0)	6.6	ロクロナデ ナデ	ロクロナデ	
5	須恵器	杯	包含層	—	(2.3)	10.0	ロクロナデ へら削り	ロクロナデ ナデ	内面自然釉付着 張り付け高台
6	須恵器	杯蓋	包含層	(16.4)	2.0	—	ロクロナデ へら削り	ロクロナデ ナデ	
7	須恵器	杯蓋	包含層	—	(1.6)	(16.0)	ロクロナデ へら削り	ロクロナデ	内外面摩滅
8	須恵器	蓋	包含層	—	—	—	格子目タタキ	同心円タタキ	張り付け高台
9	弥生土器	壺	包含層	(8.0)	—	—	ハケ目	ユビナデ	張り付け高台

遺物観察表



調査区全景（東から）



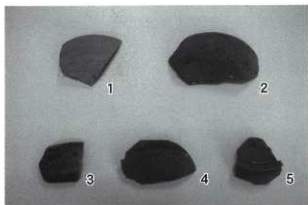
G1（北から）



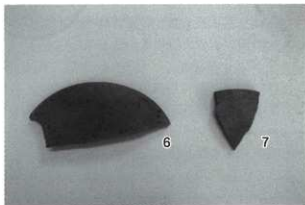
グリッド全景（南から）



埋め戻し状況



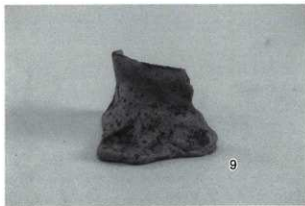
須恵器杯身



須恵器杯蓋



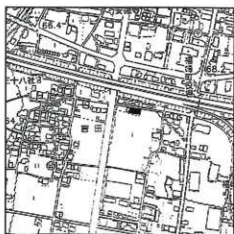
須恵器甕



弥生土器

6. 南田原条里遺跡 (第39次) (本調査)

所在地	神奈川県福岡町南田原字ナコザ3042番2
事業名	個人住宅新築工事
調査担当	樋口 碧、渡辺 昇
調査面積	42㎡
調査期間	平成30年6月4日(月)～6日(水)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成30年5月29日(火)に個人住宅新築工事に伴う試掘調査を行ったところ、遺構が確認されたため、調査の結果に基づき工事主体者と協議を行ったところ、国庫補助金を充てて町教育委員会が主体となり調査を行うこととなった。

平成30年5月30日付で工事主体者から第93条の発掘届出が提出され、平成30年6月4日(月)～6日(水)に本調査を行った。調査にあたっては、重機で遺構面上まで掘削し、人力により精査を行って遺構面を検出した。図化及び写真撮影等の記録後、埋め戻しを行った。

○調査結果

①遺構

基本層序は、第1層は盛土、第2層は耕土、第3層はオリブ黄シルト、第4層は黄灰細砂、第5層は暗灰黄シルト質細砂、第6層は暗灰黄シルト質極細砂、第7層は灰黄シルト質極細砂、第8層は暗灰黄シルト質細砂、第9層はにぶい黄シルト質極細砂で地山である。第4層にはマンガン層が認められる。第6層は包含層で奈良時代の遺物(須恵器・土師器)を濃密に含んでいる。

地山面(第9層上面)で遺構が検出された。溝・土坑・ピット・杭跡を確認している。杭跡だけは新しい時期のもので近現代かもしれない。

ピットは3基確認し、径10cm余りで柱痕跡は認められず、柱跡ではなく杭跡の可能性が高い。埋土は北側の2基は黒褐シルト質極細砂で、南側の1基は土坑と同じ灰黄褐シルト質極細砂である。

北側の土坑(SK01)は径50cmで深さ26cmを測り、底面は少し丸みを持つ。埋土は灰黄褐シルト質極細砂で、須恵器甕片が1点出土している。南側の土坑(SK02)は楕円形で浅く、溝(SD01)の延長部かもしれない。

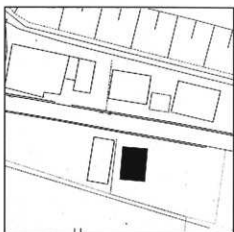
溝(SD01)は幅46～50cmで南北に延びている。調査区南側に続いている。深さは15cm前後で埋土は灰黄褐シルト質極細砂である。遺物は出土していない。

東側に向かって包含層は薄くなっていき、遺構が確認されなかったため調査範囲を西端から6mとした。

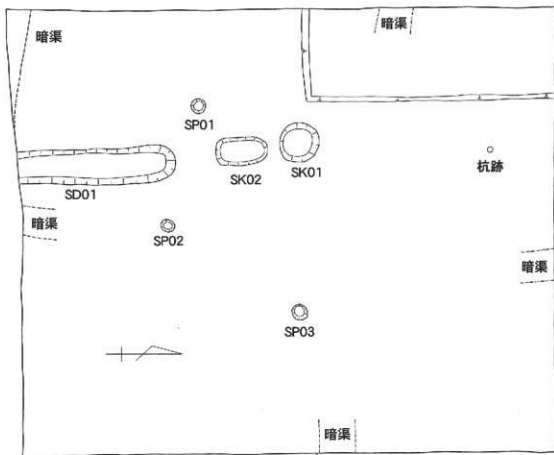
②遺物

遺物はコンテナ1箱分出土と少ない。図化したのは須恵器4点で、いずれも包含層から出土した須恵器で、胎土は概ね精良である。

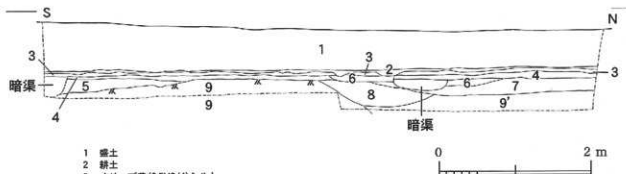
1は高台付き杯の底部である。内外面ともにロクロナデで、貼り付け高台をもつ。2は杯蓋で天井部との境に稜をもち、内外面ともにロクロナデである。3は壺の口縁部である。ほぼ垂直に立ち上がり、先端を丸くおさめる。4は稜輪で外面に自然釉が附着している。貼り付け高台をもつ。



グリッド配置図



遺構図



- 1 盛土
- 2 粘土
- 3 オリーブ黄(2.5Y6/4)シルト
- 4 黄灰(2.5Y5/1)シルト質細砂(マンガン含む)
- 5 暗灰黄(2.5Y4/2)シルト質細砂(マンガン含む)
- 6 黄緑(2.5Y5/3)シルト質細砂
- 7 灰黄(2.5Y6/2)シルト質細砂
- 8 暗灰黄(2.5Y5/2)シルト質細砂
- 9 にぶい黄(2.5Y6/3)シルト質極細砂(地山)
- 9' にぶい黄(2.5Y6/4)シルト質極細砂

土層図



遺物実測図

番号	種別	器種	遺構	法量(cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	須恵器	杯	包含層	—	1.5	14.0	ロクロナデ	ロクロナデ	張り付け高台
2	須恵器	杯蓋	包含層	—	1.0	—	ロクロナデ	ロクロナデ	
3	須恵器	壺	包含層	24.8	2.7	—	—	—	内外面摩滅
4	須恵器	碗椀	包含層	—	4.2	11.3	ロクロナデ	ロクロナデ	張り付け高台

遺物観察表

○まとめ

今回の調査では、西側部分で遺構と包含層が確認された。奈良時代の遺構で溝・土坑である。地形的に北東方向から東方向に下がっており、遺構面は南西部分に限られていた。試掘調査は工事の都合で西側にグリッドを設定したが、遺構・包含層は濃密であった。遺跡本体は西側から南西方向に伸びているものと思われる。

調査地点の南側で実施された第40次調査では、奈良時代の大型掘立柱建物や生産遺構、さらに南で行われた第22次、23次調査では奈良時代の溝とともに須恵器が確認されている。第40次調査では稜椀や製塩土器が出土していることから、この一帯に奈良時代の役所的な遺構が所在していたと考えられる。



機械掘削



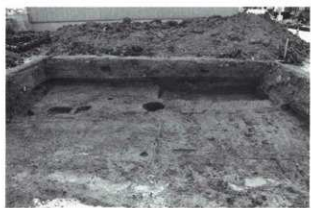
作業のようす



西壁



西壁北半



調査区全景（東から）



調査区全景（西から）



調査区全景（南から）



調査区全景（北から）



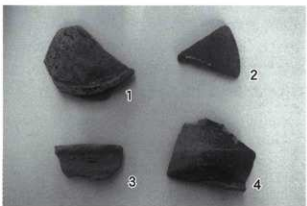
SD01断面（南から）



SK01断面（東から）



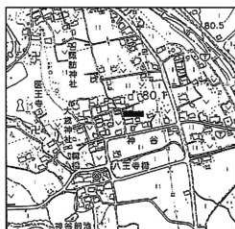
埋め戻し後状況



出土土器

7. 下々通遺跡 (第2次)

所在地 神崎郡福崎町高岡字大浦914番3他
事業名 個人住宅新築工事
調査担当 樋口 碧
調査面積 8㎡
調査期間 平成30年6月13日(水)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成30年5月28日(月)付けで、工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における個人住宅新築工事にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成30年6月13日(水)に確認調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川西岸に位置し、支流である七種川によって形成された段丘面ならびに氾濫原にあたる。南東(下流)に位置する観音堂遺跡の中でも旧河道が存在するなど複雑な地形を呈している。低位氾濫原と考えられる部分は、自然流路の一部と考えられる。

下々通遺跡では過去の調査で中世の包含層が確認されている。また、七種川を隔てた東側の福田無量寺跡は高岡唯一の古代寺院である。

○調査の概要

G1

申請地東側に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は黒褐シルト質細礫、第3層は暗褐砂層である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

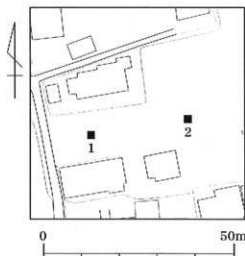
G2

申請地西側に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層はにぶい黄褐シルト質粗砂、第3層は黒褐シルト質粗砂、第4層は暗褐砂層、第5層はにぶい黄褐砂層である。

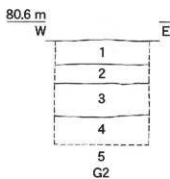
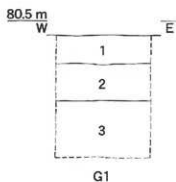
遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、明確な遺構は確認されず、安定した遺構面も確認されなかった。ただし、排土中から須恵器の椀底部が採集されている。調査の結果、調査地点は、氾濫原の旧流路中に位置すると考えられ、遺物は二次的移動によるものと考えられるが、近接して古代の遺跡が存在していることを示唆するものである。



グリッド配置図

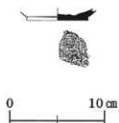


- G1
 1 暗褐色(10YR 3/4)シルト質粗砂(粘土)
 2 黒褐色(10YR 2/3)シルト質細砂
 3 暗褐色(7.5YR 3/4)砂層 円礫含む
- G2
 1 暗褐色(10YR 3/4)シルト質粗砂(粘土)
 2 にぶい黄褐色(10YR 4/3)シルト質粗砂
 3 黒褐色(10YR 2/3)シルト質粗砂(第2層の土が混じる)
 4 暗褐色(10YR 3/3)砂層
 5 にぶい黄褐色(10YR 5/3)砂層 円礫含む

土層図



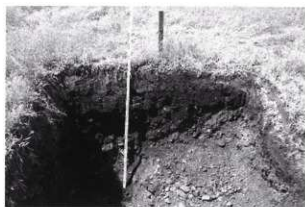
出土土器



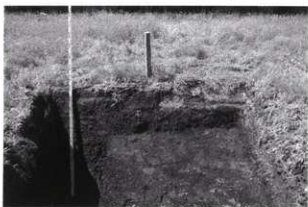
遺物実測図



調査地点全景 (西から)



G1 (南から)



G2 (南から)



埋め戻し状況

8. 中溝遺跡 (第2次)

所在地	神崎郡福岡町福田地内
事業名	福岡駅前整備事業
調査担当	樋口 碧
調査面積	8.3㎡
調査期間	平成30年6月13日(水)、8月20日(月)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成28年6月1日(水)に福岡駅周辺整備事業に伴って、福岡町まちづくり課から予備調査依頼が提出され、埋蔵文化財の有無を確認するために試掘調査を実施することとなった。平成28年度から開発状況に伴って順次試掘調査を実施してきたが、平成30年度は駅前ロータリー部分が未調査であったので、平成30年6月13日(水)にG18、8月20日(月)にG19を追加して調査を行った。

○調査の方法

調査対象地区は、福岡駅前のロータリーであった。

掘り下げは重機を用い、精査等においては人力により対応した。壁面の図化、写真撮影による記録を適宜行った。重機によって埋戻し作業も行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は低位段丘面に位置している。遺跡は線路を隔てた福岡駅北側に清水遺跡が、東北東に東田黒遺跡が、東側に馬田スガキ遺跡が存在する。

福岡駅周辺は宅地化が早く地表面の確認が実施できず、埋蔵文化財の存在が不明確な地域である。市街地であり表面観察から判断することは不可能なので試掘調査を実施した。

平成28年度の試掘調査では13・16Gで遺構が確認され、微高地が存在することが明らかになっている。その微高地が西側に延びている可能性が高い。

○調査の概要

G18

観光交流センター建設予定地に設けたグリッドである。平成28年度にアスファルトを切断して試掘調査を行う予定であったが、コンクリート舗装された部分で切断が不可能であった。そのため、平成30年度にすでに剥がされた部分が開発予定地内にあつたので、その部分に1.3×2mのグリッドを設定した。

9層から成る。第1層は厚さ15cmのコンクリートである。第2層は褐粗砂で盛土である。第3層の碎石層とともに鉄道敷設工事の際の盛土である。第4層は耕土で鉄道が出来る前は水田であったことを示している。第5層は灰オリーブシルト質極細砂、第6層はにぶい黄褐シルト質極細砂、第7層は褐シルト質極細砂で平行堆積である。砂礫層を挟んでおらず、大きな洪水堆積物は存在しないことから、ある程度安定した地域と思われる。にぶい黄シルト質極細砂が地山で、地山を切り込んで東西方向に溝が掘られている。幅40cm、深さ45cmを測るしっかりした溝である。断面形状は逆台形で、埋土は黒褐シルト質極細砂で少量の炭を含んでいる。遺物は土師器小片しか出土していないが、中溝遺跡の時期と同じ中世の遺構と思われる。

水田から鉄道用地に組み込まれたことで、遺構面は良好に保存されている。今までの調査地点の

ように擾乱が認められず、遺構の残存状態が良かったものと思われる。

G19

福崎駅南東側に貯留槽設置予定地に設定したグリッドである。掘削してすぐにコンクリート基礎に当たったため、1 m×2 mのグリッドとした。

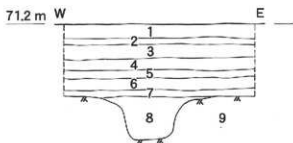
砕石、盛土の下で既設の合併浄化槽が検出され、遺構面が残存している可能性はないと判断した。そこで、近接地にG19-2、G19-3を設定して掘り下げたが、いずれもコンクリート基礎に当たったため、それ以上の掘り下げはできなかった。

○まとめ

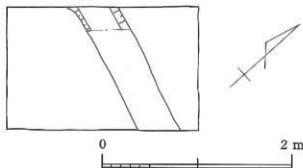
G18では、鎌倉～室町時代と思われる溝が検出され、中溝遺跡が延びていたことが明らかになった。駅前ロータリー部分に福崎駅観光交流センター建設が予定されていたため、本発掘調査を実施する。



グリッド配置図



- 1 コンクリート
- 2 礫 (7.5YR4/4) 粗砂 (盛土)
- 3 砕石
- 4 暗オリーブ灰 (2.5GY4/1) シルト質極細砂 (餅土)
- 5 灰オリーブ (7.5Y4/2) シルト質極細砂
- 6 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト質極細砂
- 7 礫 (10YR4/4) シルト質極細砂
- 8 黒礫 (10YR2/1) シルト質極細砂
- 9 にぶい黄 (2.5Y6/3) シルト質極細砂 (地山)



遺構図



G18調査地点全景（南東から）



機械掘削



人力掘削



G18溝検出状況（南西から）



埋め戻し後状況



G19機械掘削



G19-2コンクリート基礎



G19-3コンクリート基礎

9. 西田原字上坂試掘

所在地 神崎郡福崎町西田原字上坂1094-4他
事業名 福崎町都市整備事業
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 12㎡
調査期間 平成30年7月10日(火)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成30年7月9日(月)、福崎町都市整備事業に伴う道路敷設工事が、周知の埋蔵文化財包蔵地である北野散布地の近接地点で施工されていたのを発見。平成8年度に教育委員会による分布調査が実施されており、土器の散布が認められる地点であったため、工事を中断し、平成30年7月10日(火)に試掘調査を実施した。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

地形について、宮山と呼ばれる山の南斜面に位置し、南に雲津川が流れる低位段丘に位置付けられる。

北西に弥生時代中期から古墳時代後期、中世、近世の遺跡である上大明寺遺跡、東に弥生時代から平安時代の集落跡として知られる北野散布地が近接しており、平成8年度に実施された分布調査においては、土器が濃密に散布しているのが確認されている。

○調査の概要

G 1

現状は畑地であった。第1層は耕土、第2層は暗褐色シルト質粗砂、第3層は暗褐色シルト質中砂、第4層は暗褐色シルト質粗砂、第5層はオリーブ褐色シルト質粗砂、第6層は暗褐色シルト質細礫、第7層は黄褐色シルト質細礫、第8層は地山である。

第4層から中世の須恵器が出土した。また、地山直上から溝が2条確認された。

G 2

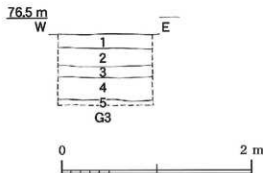
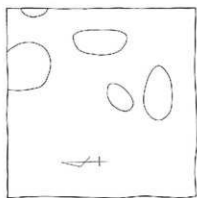
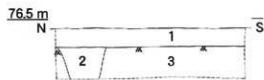
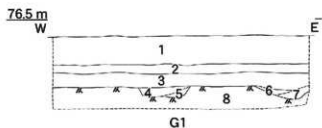
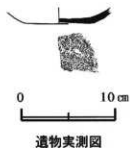
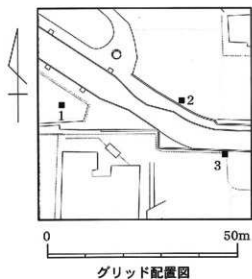
現状は畑地であった。第1層は耕土、第2層は暗褐色シルト質細砂、第3層は地山である。耕土直下にピットが5基確認された。遺物は見つかっていないため、時期は不明である。

G 3

現状は碎石が敷かれた駐車場であった。第1層は碎石、第2層は盛土、第3層はオリーブ褐色シルト質粗砂、第4層は褐色シルト質細礫、第5層は地山である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

調査の結果、G 1から溝2条、G 2からピット5基が見つかったため、周知の埋蔵文化財包蔵地の変更について県教委に報告し、第94条の届出をもって対応することとする。



- G1
- 1 オリーブ編 (2.5Y3/3) シルト質粗砂 地山土少し含む
 - 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト質粗砂
 - 3 暗褐色 (10YR3/4) シルト質中砂
 - 4 暗褐色 (10YR3/3) シルト質粗砂 包含層
 - 5 オリーブ編 (2.5Y4/4) シルト質粗砂
 - 6 暗褐色 (10YR3/3) シルト質細砂
 - 7 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト質細砂
 - 8 褐色 (10YR4/4) シルト質粗砂 (地山)

- G2
- 1 オリーブ編 (2.5Y4/4) シルト質粗砂
 - 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト質細砂
 - 3 褐色 (10YR4/4) シルト質粗砂 (地山)

- G3
- 1 砕石
 - 2 オリーブ編 (2.5Y3/3) シルト質粗砂 (硬土)
 - 3 オリーブ編 (2.5Y4/4) シルト質粗砂 炭含む
 - 4 褐色 (10YR4/4) シルト質細砂
 - 5 褐色 (10YR4/4) シルト質粗砂 (地山)



調査地点全景（西から）



G1（南から）



G2（西から）



機械掘削



G3（南から）



出土土器

10. 南田原条里遺跡 (第41次)

所在地 神崎郡福崎町南田原字東田2232番1
事業名 店舗新築工事
調査担当 樋口 碧
調査面積 8㎡
調査期間 平成30年7月24日(水)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成30年7月10日(火)付けで、工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における店舗新築工事にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成30年7月24日(火)に確認調査を行った。

○調査の概要

G1

建物建設予定地ほぼ中央に設定した。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は暗灰黄シルト質細砂、第4層はオリブ黒シルト質細砂、第5層は暗褐シルト質粗砂である。第3層から第5層は洪水堆積層であり、近隣の調査状況から下層に安定した面は確認できないと判断し、掘削を停止した。

第4層から須恵器が1片出土しているが、安定した遺構面が検出されなかったことから、二次的移動によるものだと考えられる。

顕著な遺構は確認されなかった。

G2

駐車場予定地に設定した。第1層は耕土、第2層は床土、第3層は暗灰黄シルト質細砂、第4層はオリブ黒シルト質細砂、第5層は暗褐シルト質粗砂である。第3層から第5層は洪水堆積層であり、近隣の調査状況から下層に安定した面は確認できないと判断し、掘削を停止した。

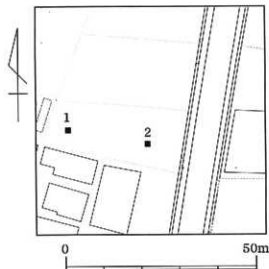
床土から土師器が1片出土しているが、二次的移動によるものだと考えられる。また、第4層中に1辺20cm弱の方形のピットが確認されたが、近現代のものと思われる。

顕著な遺構は確認されなかった。

○まとめ

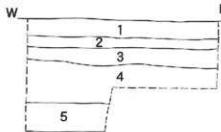
今回の調査では、明確な遺構は確認されず、安定した遺構面も確認されなかった。第3層、第4層がシルト質で細砂を含んだ土層、第5層が砂を多く含んだ土層であることから、洪水堆積層であると考えられる。

摩滅のほとんどない土器片が確認されていることから、近くに遺構が存在する可能性があり、近隣の開発等には注意が必要である。

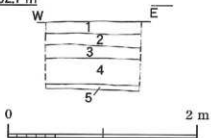


グリッド配置図

62.9 m



62.7 m



- 1 オリーブ層 (2.5YR4/3) シルト質粗砂 (粘土)
- 2 黄褐 (2.5YR5/4) シルト質中砂 (床土)
- 3 暗灰質 (2.5YR4/2) シルト質細砂
- 4 オリーブ層 (5Y2/2) シルト質粗砂
- 5 暗褐 (10YR3/3) シルト質粗砂

土層図



調査地点全景 (東から)



G1 (西から)



G2 (西から)



埋め戻し状況

11. 南田原字金垣内試掘調査

所在地 神崎郡福岡町南田原字金垣内1933番1他
事業名 事務所、通所介護施設新築工事
調査担当 渡辺 界
調査面積 20㎡
調査期間 平成30年8月22日(水)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

事務所、通所介護施設新築工事に伴って遺跡照会があり、工事予定箇所が段丘面に位置しており隣接して遺跡が存在することから、試掘調査の必要性を伝えた。それを受けて平成30年6月11日(月)付けて工事主体者から予備調査依頼書が提出され、協力を得て平成30年8月22日(水)に試掘調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川東岸に位置し、段丘面にあたる。

段丘面上には多くの遺跡が確認されており、隣接する西側にも西田原上野田遺跡や西田原前田遺跡が存在している。同様な立地条件なので、遺跡存在の可能性が考えられる。また、小字名が金垣内で北側の鐘鋳場との関連が考えられている地域である。妙徳山神積寺などの鐘を鋳造した場所とも伝えられており、生産遺跡の可能性のある地域である。

○調査の概要

G1

調査対象地の北西に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は暗褐シルト質極細砂、第3層は黒褐シルト質極細砂で円礫を含んでいる。第4層は褐灰シルト質極細砂、第5層は地山であるにぶい黄褐シルト質極細砂で円礫を含んでいる。耕土から近代以降の陶磁器が出土した以外に遺物は出土していない。遺構も確認されなかった。

G2

G1の東側に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は暗褐シルト質極細砂で、その下が地山である明黄褐シルトである。深さ30cmで地山となる。遺構、遺物ともに確認されなかった。

G3

G2の南側に設定したグリッドである。G2と同じ堆積であるが、第2層暗褐シルト質極細砂と地山の間に褐灰シルト質極細砂(G1の第4層と同じ層)が堆積している。遺構、遺物ともに確認されなかった。

G4

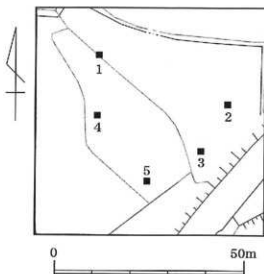
南側の標高の低い水田の西側に設定したグリッドである。第1層は耕土、第2層は暗褐シルト質極細砂、第3層は褐灰シルト質極細砂、第4層は地山である明黄褐シルトである。遺構、遺物ともに確認されなかった。

G5

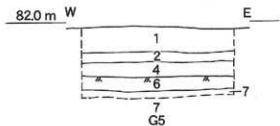
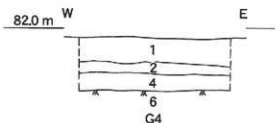
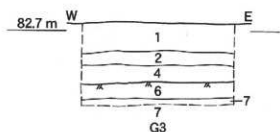
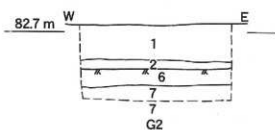
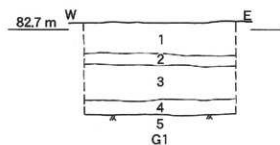
G4の南側に設定したグリッドである。G4と同じ堆積で、遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、遺構は確認されず、遺物も近代以降の陶磁器が耕土に含まれていた以外は出土していない。安定した遺構面も確認されておらず、遺構の存在の可能性は低いものと思われる。



グリッド配置図



- 1 耕土
- 2 暗褐色(10YR3/3)シルト質極細砂
- 3 黒褐色(10YR2/2)シルト質極細砂 礫含む
- 4 褐灰(10YR4/1)シルト質極細砂
- 5 にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト質極細砂 礫含む(地山)
- 6 明黄褐色(10YR6/6)シルト質極細砂(地山)
- 7 灰黄褐色(10YR6/2)粗砂



土層図



調査区全景（南から）



G1（南から）



人力掘削



G2（南から）



G3（南から）



G4（南から）



G5（南から）



埋戻し状況

1.2. 西田原字西広岡試掘

所在地 神崎郡福崎町西田原字西広岡999番1
事業名 個人住宅新築工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 4㎡
調査期間 平成30年9月12日(水)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

個人住宅新築工事に伴う包蔵地の照会があり、開発地が北野散布地に近接していたため、試掘調査の協力を求めた。平成30年8月19日(日)付けで工事主体者から予備調査依頼書が提出され、9月12日(水)に試掘調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川東岸に位置し、市川ならびに支流である雲津川によって形成された段丘面にあたる。調査の結果、北西部には礫層が出ていることから、南東から北西に向けて大きく傾斜していた地形であることが窺える。水田開発によって段丘面の高い部分が削平されたと思われる。

近接する北野散布地は平成8年度に分布調査が実施され、広い範囲で遺物が採集され、濃密な遺物分布が確認された。当該地もその時に遺物が採集されている。須恵器・土師器が多く、古代を中心とする遺跡と思われていた。第1次調査では遺物は出土したが明確な遺構は確認されなかった。北西に位置する上大明寺遺跡では弥生時代の竪穴住居や墓が調査されており、今回調査区との関連が想定される。調査地点の南側で行った第4・5次調査では、弥生時代後期から平安時代までの遺構が確認された。弥生後期は竪穴住居と掘立柱建物の両者が確認された。

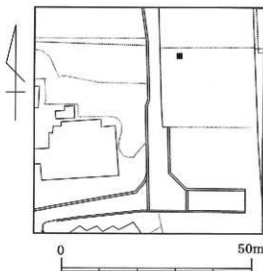
○調査の概要

G1

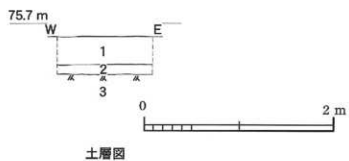
建物建設予定地に設定した。第1層は耕土、第2層は暗褐色シルト質細礫、第3層は褐シルト質粗砂で地山である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、遺構は確認されなかった。調査地点付近の地形は、東にいくにつれてゆるやかに標高が上がっており、北野散布地の東側で行った第4・5次調査では、弥生時代後期から平安時代までの遺構が確認されている。遺構は北野散布地内に広がり、地形の低くなる西側には存在しないものと考えられる。



グリッド配置図



- 1 離オリーブ層(2.5Y3/3)シルト質粘砂(粘土)
- 2 暗褐色(10YR3/4)シルト質粘機
- 3 褐色(10YR4/4)シルト質粘砂(地山)



調査地点全景 (西から)



機械掘削



G1 (南から)



作業風景

13. 北野散布地 (第6次)

所在地 神崎郡福崎町西田原字下広岡967番1他
事業名 太陽光発電設備設置工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 8㎡
調査期間 平成30年9月12日(水)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成30年8月15日(水)付けで、工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地における太陽光発電設備設置工事にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成30年9月12日(水)に確認調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川東岸に位置し、市川ならびに支流である雲津川によって形成された段丘面にあたる。調査の結果、北西部には礫層が出ていることから、南東から北西に向けて大きく傾斜していた地形であることが窺える。水田開発によって段丘面の高い部分が削平されたと思われる。

北野散布地は平成8年度に分布調査が実施され、広い範囲で遺物が採集され、濃密な遺物分布が確認された。当該地もその時に遺物が採集されている。須恵器・土師器が多く、古代を中心とする遺跡と思われていた。第1次調査では遺物は出土したが明確な遺構は確認されなかった。北西に位置する上大明寺遺跡では弥生時代の竪穴住居や墓が調査されており、今回の調査区との関連が想定される。調査地点の南側で行った第4・5次調査では、弥生時代後期から平安時代までの遺構が確認された。弥生後期は竪穴住居と掘立柱建物の両者が確認された。

○調査の概要

G1

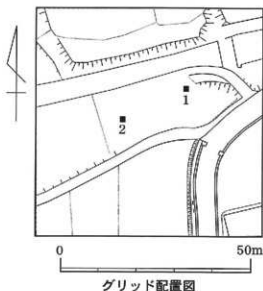
東側に設定したグリッドで、第1層は耕土、第2層はオリーブ褐シルト質粗砂、第3層はにぶい黄褐シルト質粗砂、第4層は暗褐シルト質粗砂、第5層はにぶい黄褐シルト質粗砂、第6層は灰黄褐色砂礫層である。遺物、遺構ともに確認されなかった。

G2

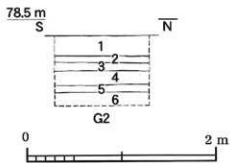
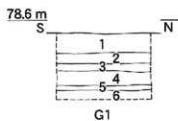
西側に設定したグリッドで、層序はG1と同じである。遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、G1、2ともに遺構は確認されなかった。調査地点の地形は周囲より下がっており、第6層は雲津川の河川堆積層と考えられる。第4・5次調査の結果、遺構が存在するのは調査地点より南北方向それぞれの段丘上に存在する可能性が高い。



グリッド配置図



- 1 粘土
- 2 オリーブ褐(2.5Y4/4)シルト質粗砂 黄褐
(10YR5/6)土、粘土含む
- 3 にぶい黄褐(10YR4/3)シルト質粗砂 黄褐
(10YR5/6)土含む
- 4 暗褐(10YR3/4)シルト質粗砂
- 5 にぶい黄褐(10YR4/3)シルト質粗砂
- 6 灰黄褐(10YR4/2)砂礫層

土層図



調査地点全景 (東から)



G1 (東から)



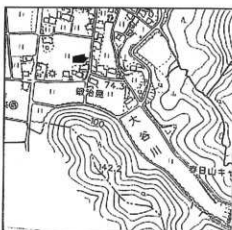
G2 (東から)



埋め戻し状況

14. 八千種字南ノ下試掘調査

所在地	神崎郡福崎町八千種字南ノ下3852番3
事業名	個人住宅新築工事
調査担当	樋口 碧
調査面積	8㎡
調査期間	平成30年9月18日(火)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

個人住宅新築工事に伴って遺跡照会があり、工事予定箇所が段丘面に位置しており隣接して鍛冶屋遺跡が存在することから、試掘調査の必要性を伝えた。それを受けて平成30年9月7日(金)付けで工事主体者から予備調査依頼書が提出され、協力を得て平成30年9月18日(火)に試掘調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川の支流である平田川東岸に位置し、地形区分上は高位段丘面に位置付けられる。

調査地点の北側には周知の埋蔵文化財包蔵地である鍛冶屋遺跡が存在し、段丘面に広がる遺跡で古代から中世にかけての遺物が採集されている。第4次調査では、中世の遺構が確認された。北側の段丘上には八千種庄古屋敷遺跡・八千種庄北袂遺跡が存在しており、平成9年度には場整備事業に伴って発掘調査が実施されている。西側の段丘面上には昭和52年と早い段階に、弥生時代の方形周溝墓が調査された玉屋遺跡がある。

○調査の概要

G1

調査地点北西部に設定したグリッドである。層序は、第1層は耕土、第2層は床土、第3層はオリブ褐シルト質粗砂、第4層はにぶい黄褐シルト質粗砂、第5層は褐シルト質細砂で地山、第6層も地山で明黄褐シルト質中砂である。

顕著な遺構は確認されなかったが、第4層から中世の須恵器片、土師器片が見つかった。3点図化しており、いずれも中世のものと思われる。

G2

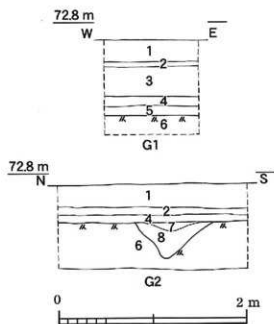
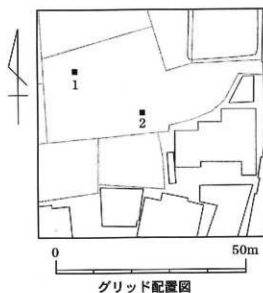
調査地点南東部に設定したグリッドである。層序は、第1層は耕土、第2層は床土、第3層はにぶい黄褐シルト質粗砂、第4層は地山で明黄褐シルト質中砂(細礫含む)である。

上層断面で、第3層から土坑状の掘り込みが確認された。また、第3層から須恵器片、土師器片が見つかった。

○まとめ

今回の調査では、G1の第4層、G2の第3層から中世のものと思われる須恵器片、土師器片が見つかった。また、G2においては、土層断面で土坑状の掘り込みが確認された。

調査地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である鍛冶屋遺跡から南東方向に約50m離れた場所に位置する。第4次調査で確認された包含層と同じ、中世の土器片を含んだ土層がほぼ同じレベルで今回の調査地点でも確認されたため、同じ包含層が広がっていると言える。今後は、鍛冶屋遺跡として登録し、工事においては第93条の届出をもって対応することとする。



- 1 暗オリーブ褐(2.5Y3/3)シルト質粗砂(粘土)
- 2 オリーブ褐(2.5Y4/6)シルト質粗砂(床土)明黄褐色土(10YR7/6)含む
- 3 オリーブ褐(2.5Y4/4)シルト質粗砂 灰黄褐色土(10YR6/2)が相互に堆積、マンガンたまる
- 4 濃い黄褐(10YR4/3)シルト質粗砂明黄褐色土(10YR7/6)含む(包含層)
- 5 褐(10YR4/4)シルト質細砂(地山)
- 6 明黄褐(10YR7/6)シルト質中砂(地山)
- 7 オリーブ褐(2.5Y4/3)シルト質中砂
- 8 明黄褐(2.5Y6/6)シルト質粗砂

土層図



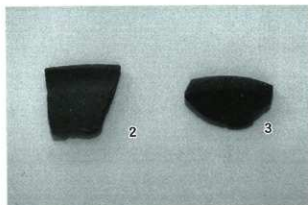
遺物実測図

番号	種別	器種	遺構	法量 (cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	須恵器	椀	包含層	-	(1.3)	(5.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	底部糸切り
2	須恵器	杯	包含層	-	(2.1)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	重ね焼き痕有
3	須恵器	皿	包含層	9.0	(1.4)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	重ね焼き痕有

遺物観察表



出土土器



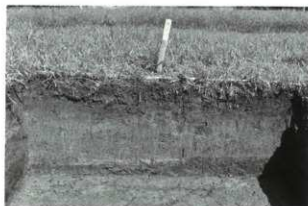
出土土器



調査地点全景（東から）



機械掘削



G1（南から）



G2（西から）



作業風景



作業風景



埋め戻し状況



埋め戻し後状況

15. 福田字前垣内試掘

所在地 神奈川県福崎町福田字前垣内783番地7
事業名 個人住宅新築工事
調査担当 渡辺 昇
調査面積 4㎡
調査期間 平成30年9月26日(水)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

当該地は段丘面に位置し、南東部分に中溝遺跡が存在し、その遺構面が延びている可能性があることから、遺跡の存在する可能性が考えられた。そのことから調査協力を依頼し、平成30年9月18日(水)付けて工事主体者から予備調査依頼書が提出された。それを受けて平成30年9月26日(水)に試掘調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川西岸に位置し、地形区分上は低位段丘面に位置している。周知の遺跡は北東方向に清水遺跡が、南東方向に中溝遺跡が存在する。中溝遺跡は弥生時代後期から中世にわたる複合遺跡で、遺跡は北西から西方向にさらに延びている可能性が考えられる。

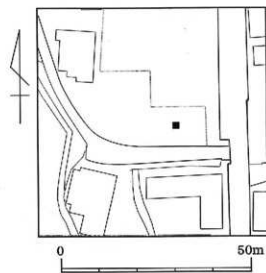
○調査の概要

G1

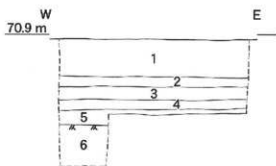
6層から成る。第1層は盛土で山土である。第2層も盛土で、耕土が主体で第4層などがブロック状に入っている。第3層はにぶい黄褐シルト質極細砂で小礫を含んでいる。第4層は黒褐シルト質極細砂で小礫とマンガンを含んでいる。第5層は灰黄褐シルト質極細砂で地山の可能性もある。第6層は地山で褐シルト質極細砂である。遺物は出土しておらず、顕著な遺構も確認されなかった。

○まとめ

今回の試掘確認調査では、遺構、遺物は確認されなかった。工事に支障がない状況と言え、慎重工事で対応する。



グリッド配置図



- 1 盛土(山土)
- 2 盛土(粘土に第4層混じる)
- 3 にぶい黄褐(10YR5/4)シルト質細砂(小礫含む)
- 4 黒褐(10YR2/2)シルト質細砂(小礫・マンガン含む)
- 5 灰黄褐(10YR4/2)シルト質細砂(地山の可能性あり)
- 6 褐(10YR4/6)シルト質細砂(地山)



土層図



調査地点全景 (南東から)



G1 (南から)



G1断ち割り



埋め戻し状況

16. 南田原条里遺跡 (第42次)

所在地 神崎郡福崎町南田原字岸ノ上2265-1
事業名 歯科医院新築工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 4㎡
調査期間 平成30年10月10日(水)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成30年9月18日(火)付けで、工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における歯科医院新築工事にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成30年10月10日(水)に確認調査を行った。

○調査の概要

G1

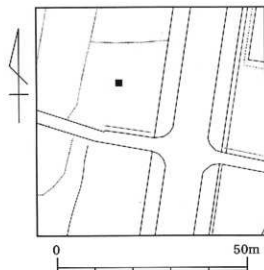
建物建設予定地ほぼ中央にグリッドを設定した。第1層は耕土、第2層は黄褐シルト質中砂、第3層はオリーブ褐砂層、第4層は暗褐砂礫層である。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

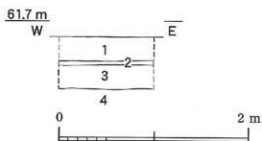
○まとめ

今回の調査では、明確な遺構は確認されず、安定した遺構面も確認されなかった。砂礫層が検出されたことから、調査地点は氾濫原の旧流路中に位置すると考えられる。

調査地点から約60m南で実施した第20次調査では奈良時代の遺構、遺物が確認されている。この遺構が北に広がる可能性も期待できたが、今回の調査地点では旧河道が確認されたため、遺構は南に広がると思われる。



グリッド配置図



- 1 暗灰質(2.5Y4/2)シルト質粗砂(表土)
- 2 黄褐色(2.5Y5/6)シルト質中砂(1の土まだらに混ざる)
- 3 オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂層
- 4 暗褐色(10YR3/3)砂礫層(拳~人頭大の円礫含む)

土層図



調査地点全景(北東から)



作業風景



G1(南から)



作業風景



埋め戻し状況



埋め戻し後状況

17. 大貫字石引試掘

所在地	神奈川県福岡町大貫字石引1336番他
事業名	太陽光発電設備設置工事
調査担当	樋口 碧、渡辺 昇
調査面積	8㎡
調査期間	平成30年10月15日(月)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

太陽光発電設備設置工事に伴う事前調整があり、平成30年10月9日(火)付で工事主体者から予備調査依頼書が提出された。それを受けて平成30年10月15日(月)に試掘調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は段丘面に位置している。周知の遺跡は西に位置する相山古墳、南西に位置する西大貫遺跡、南に位置する下遺跡が知られている程度で、遺跡はほとんど知られていない。

古墳時代後期の相山古墳から南は平野部が広がり、東側は加西市につながる谷部となっている。平成3年度のは場整備により確認された西大貫遺跡では縄文時代から中世にかけての集落遺跡として知られている。

○調査の概要

G1

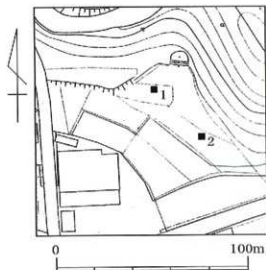
北側の筆に設定したグリッドで、2層から成る。第1層は耕土で、第2層は地山で山土である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

G2

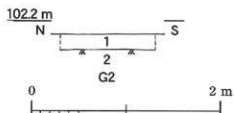
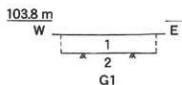
南側の筆に設定したグリッドで、2層から成る。第1層は耕土で、第2層は地山で山土である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

事前の分布調査で須恵器片が採集されたことから、遺構が確認されることが期待できたが、今回の試掘調査では、遺構、遺物ともに確認されなかった。耕土は客土と考えられる。



グリッド配置図



- G1
1 粘土
2 明貫橋(10YR7/8)シルト質細機 赤褐色土(2.5YR4/8)まだらに含む(地山)
G2
1 粘土
2 明橋(7.5YR5/6)シルト質粗砂(地山)

土層図



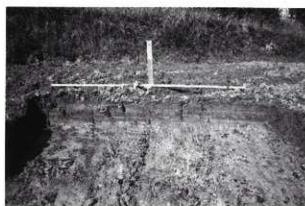
調査区全景 (西から)



機械掘削



作業風景



G1 (南から)



G2 (西から)



埋め戻し後状況

18. 大貫字小角試掘

所在地 神崎郡福崎町大貫字小角
事業名 道路改良工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 4㎡
調査期間 平成30年10月23日(火)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

道路改良工事に伴う事前調整があり、工事予定箇所の周囲で調査歴がないこと、工事箇所が段丘上に位置していることから、協力を得て平成30年10月23日(火)に試掘調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川の支流である平田川東岸に位置し、地形区分上は高位段丘面に位置付けられる。

調査地点の北東側には古墳時代から中世の遺跡として知られるタイノ前遺跡、北側には縄文時代から中世の遺跡として知られる西大貫遺跡がある。

調査地点周辺は、古くから集落を形成しており、ほ場整備等の開発行為対象とはならなかったため、過去に調査が行われておらず、新たな遺跡が発見される可能性が高い地区である。

○調査の概要

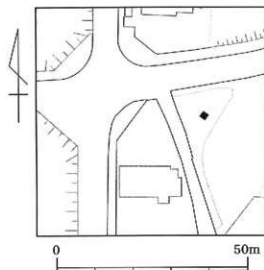
G1

道路敷設予定地に設定した。6層から成っている。第1層はオリーブ褐シルト質中砂(耕土)、第2層は暗灰黄シルト質粗砂、第3層はオリーブ褐シルト質粗砂、第4層は黄灰シルト質粗砂、第5層は暗褐シルト質粗砂、第6層はオリーブ褐砂礫層(地山)、第7層は黄灰シルト質粗砂である。調査地点は、地形区分上は段丘と扇状地の境界であり、第6層が落ち込んでいるという土層の堆積状況からもそれと確認できた。

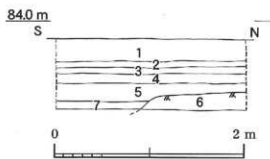
遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、遺構、遺物ともに確認されなかった。調査地点に遺構は存在しないが、南東方向に向かって標高が高くなっており、現在の集落が位置していることから遺構が存在している可能性がある。



グリッド配置図



- 1 オリーブ褐 (2.5Y4/3) シルト質中砂 (粘土)
- 2 暗灰黄 (2.5Y4/2) シルト質粗砂 (5mm次の細礫、マンガン含む)
- 3 オリーブ褐 (2.5Y4/4) シルト質粗砂 (2の土まだらに混ざる)
- 4 黄灰 (2.5Y4/1) シルト質粗砂
- 5 暗褐 (10YR3/4) シルト質粗砂
- 6 オリーブ褐砂礫層 (2.5Y4/3) (地山)
- 7 黄灰 (2.5Y4/1) シルト質粗砂に褐色土 (7.5Y4/6) 含む

土層図



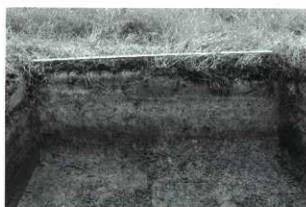
調査地点全景 (東から)



機械掘削



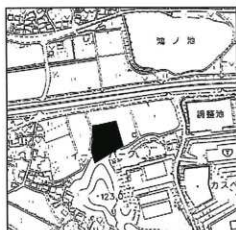
作業風景



G1 (東から)

19. 下遺跡 (第1次)

所在地 神崎郡福崎町大貫字下り、和田
事業名 東部工業団地拡張事業
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 16㎡
調査期間 平成30年10月23日(火)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における東部工業団地拡張事業にかかる事前調整があった。

平成30年10月23日(火)に確認調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川の支流である平田川東岸に位置し、地形区分上は高位段丘面及び扇状地に位置付けられる。

調査地点の南西側には古墳時代から中世の遺跡として知られるタイノ前遺跡、北西側には縄文時代から中世の遺跡として知られる西大貫遺跡がある。

調査地点東側は、現在は工業団地造成工事により消滅しているが、カスベ口遺跡、飛原口遺跡が存在しており、確認調査が行われている。東部工業団地拡張部については昭和45年からほ場整備事業が実施されたが、埋蔵文化財調査は実施されておらず、遺跡の状況については不明である。

○調査の概要

G1

遺跡北側の田の西側に設定した。2層から成っている。第1層はオリーブ褐シルト質粗砂(耕土)、第2層は橙シルト質粗砂(地山)である。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

G2

遺跡北側の田の東側に設定した。4層から成っている。第1層はオリーブ褐シルト質粗砂(耕土)、第2層は黄褐シルト質粗砂(床土)、第3層は灰黄褐シルト質粗砂、第4層は黄褐シルト質細礫(地山)である。第3層から須恵器片が出土したが、二次的移動によるものと考えられる。

遺構は確認されなかった。

G3

遺跡中程の尾根の先端に設定した。2層から成っている。第1層は暗褐シルト質粗砂(耕土)、第2層は明赤褐シルト質粗砂(地山)である。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

G4

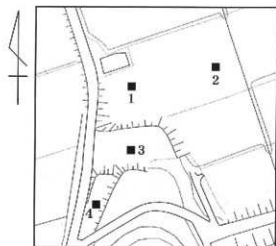
遺跡南側の山裾に設定した。2層から成っている。第1層は暗褐シルト質粗砂(耕土)、第2層は明赤褐シルト質粗砂(地山)である。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

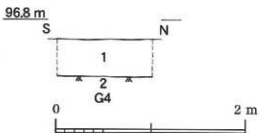
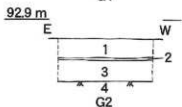
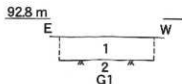
○まとめ

今回の調査では、顕著な遺構は確認されなかった。G2から須恵器片が確認されていることから、南側あるいは東側の段丘面にあったカスベ口遺跡（東部工業団地の調整池設置時に消滅した）からの流れ込みと推測できる。

ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査は実施されていないが、工業団地拡張予定地東側については遺構がある可能性もある。



グリッド配置図



G 1

- 1 オリーブ褐(2.5Y4/4)シルト質粗砂(礫土)
- 2 豊(7.5YR6/8)シルト質粗砂(マンガン含む)(地山)

G 2

- 1 オリーブ褐(2.5Y4/4)シルト質粗砂(礫土)
- 2 黄褐(10YR5/6)シルト質粗砂(灰土)
- 3 灰黄褐(10YR5/2)シルト質粗砂 褐色土(10YR4/6)相互に堆積
- 4 黄褐(2.5Y5/6)シルト質細礫 礫多く含む(地山)

G 3, 4

- 1 暗褐(10YR3/4)シルト質粗砂(礫土)
- 2 明赤褐(2.5YR5/8)シルト質粗砂(地山)

土層図



調査地点全景（北西から）



G1（北から）



作業風景



G2（北から）



機械掘削



G3（西から）



G4（北から）



埋め戻し後状況

20. 清水遺跡（第3次）

所在地 神崎郡福崎町山崎618-1他
事業名 個人住宅新築工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 4㎡
調査期間 平成30年11月14日（水）



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成30年11月2日（金）付けで、工事主体者の代理人から周知の埋蔵文化財包蔵地内における個人住宅新築工事にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成30年11月14日（水）に確認調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

清水遺跡は段丘上に位置し、東に大塚古墳、南東に福田東田黒遺跡が存在する。

古墳時代の遺物が採集されたことから周知の埋蔵文化財包蔵地として知られていたが、遺跡の北側で実施した第1次調査、遺跡の南側で実施した第2次調査ともに遺跡は確認されていない。

○調査の概要

G1

建物建築予定地中央にグリッドを設けた。約30cm程度掘削したところで地盤改良面にあたり、それ以上の掘削ができなかったため、場所を変えてグリッドを設けた。

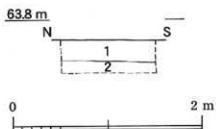
建物建築予定地の東側に再度G2を設けた。耕土、地盤改良面からなっている。こちらでも約30cm掘削したところ地盤改良面が確認され、それ以上の掘削ができなかった。

○まとめ

今回の調査において、建物建築予定地の下で地盤改良面が確認されたため、遺構の有無の確認をすることができなかった。基礎等の掘削は20cm程度であり、地盤改良面に達しないことから、慎重工事に対応する。



グリッド配置図



土層図



調査地点全景（西から）



G1掘削状況



G2（西から）



埋め戻し状況



埋め戻し後状況

2.1. 南田原条里遺跡 (第43次)

所在地 神崎郡福崎町南田原字川田2939-2
事業名 個人住宅新築工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 4㎡
調査期間 平成30年11月14日(水)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成30年10月29日(火)付けて、工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における個人住宅新築工事にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成30年11月14日(水)に確認調査を行った。

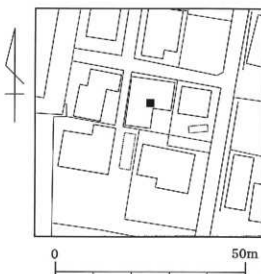
○調査の概要

建物建設予定地ほぼ中央にグリッドを設定した。6層から成っている。第1層は造成土、第2層は床土、第3層は黒褐シルト、第4層は黒褐砂層、第5層は褐砂層、第6層はにぶい黄褐砂層である。第3層から第6層は市川の氾濫による堆積層と思われる。第4層に30～60cmのピットが3つ確認されたが、木の根等によるものと考えられ、明確な遺構は存在しないと考えられる。遺物は確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、明確な遺構は確認されず、ピットが確認された第4層も砂層であり、安定した遺構面が確認されたとは言えない。砂層が検出されたことから、調査地点は氾濫原に位置すると考えられる。

調査地点から約30m北で実施した第18次調査では、弥生時代の土器片を含む土層の堆積が認められたため、この遺構が南に広がる可能性も期待できたが、今回の調査地点では氾濫原が確認されたため、遺構は今回の調査地点まで広がってはいないと思われる。

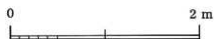


グリッド配置図

72.7 m



- 1 オリーブ褐 (2.5YR4/3) シルト質粗砂 (造成土)
- 2 黄褐 (2.5Y5/6) シルト
- 3 黒褐 (10YR2/2) シルト
- 4 黒褐 (10YR2/2) 砂層 細砂
- 5 褐 (10YR4/4) 砂層 細砂
- 6 にぶい黄褐 (10YR5/4) 砂層 極細砂



土層図



調査地点全景 (北西から)



機械掘削



G1 (西から)



G1断ち割り

2.2. 南田原条里遺跡 (第44次)

所在地 神崎郡福崎町南田原字東角3103番7
事業名 個人住宅新築工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 4㎡
調査期間 平成30年11月19日(月)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

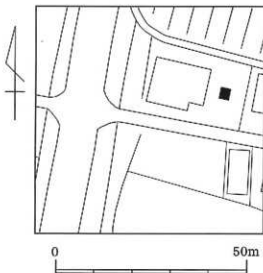
平成30年11月2日(金)付けて、工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における個人住宅新築工事にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成30年11月19日(月)に確認調査を行った。

○調査の概要

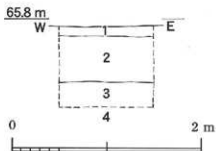
建物建設予定地ほぼ中央にグリッドを設定した。4層から成っている。第1層は碎石、第2層、第3層は造成土、第4層は灰オリブシルト質中砂である。第4層は第38次、第40次調査で確認した地山面に相当すると考えられるが、今回の調査地点では遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、明確な遺構は確認されなかった。50m程度南東で実施した第39次調査では奈良時代の遺構や遺物が確認されていたが、北西には遺構が広がっていないものと思われる。



グリッド配置図



- 1 碎石(造成土)
- 2 オリブ層(2.5Y4/3)シルト質粗砂
- 3 黄褐色(2.5Y4/1)シルト質中砂～雑灰質(2.5Y4/2)シルト質中砂
- 4 灰オリブ(5Y4/2)シルト質中砂

土層図



機械掘削



作業風景



G1 (南から)



埋め戻し後状況

2.3. 加治谷越前遺跡（第3次）

所在地 神崎郡福崎町東田原字前田1734番
事業名 個人住宅新築工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 4㎡
調査期間 平成30年12月4日（火）



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成30年11月9日（金）付で、工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における個人住宅新築工事にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成30年12月4日（火）に確認調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は中位の段丘面に位置付けられる。

加治谷越前遺跡はほぼ場整備事業に伴い平成7年度に調査が行われ、弥生時代から中世の遺構が確認されている。

○調査の概要

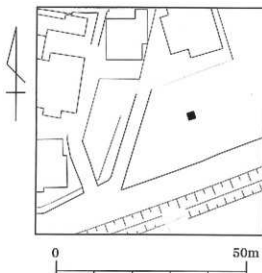
G1

住宅建築予定地に設定したグリッドで、第1層は盛土、第2層は地山である。

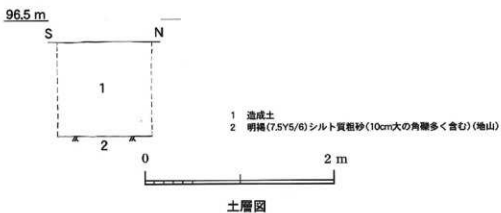
盛土内から須恵器片が検出されたが、二次的移動ものものと思われる。遺構は確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、遺構、遺物ともに確認されなかった。しかし、調査地点の東側で実施された第1次調査、第2次調査では弥生時代の竪穴住居や中世の掘立柱建物が確認された。遺構は遺跡の東側を中心に所在しているものと思われる。



グリッド配置図



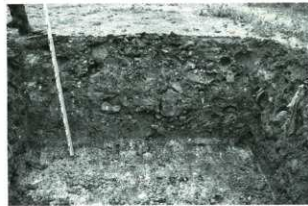
調査地点全景 (西から)



機械掘削



作業風景



G1 (東から)



埋め戻し状況



埋め戻し後状況

2.4. 東田原字掛上がり試掘調査

所在地 神崎郡福崎町東田原字掛上がり911-1
事業名 擁壁設置工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 2㎡
調査期間 平成30年12月4日(火)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成30年11月27日(金)付けで、工事主体者から擁壁設置工事に伴う予備調査依頼書が提出され、協力を得て平成30年12月4日(火)に試掘調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は中位の段丘面に位置付けられる。南には奈良時代の集落遺跡が確認された西田原上野田遺跡が所在する。

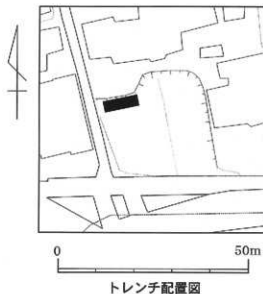
○調査の概要

T1

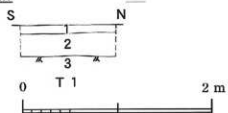
擁壁掘削部分に設定したトレンチで、第1層は盛土、第2層は地山である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回の調査で地点の南には西田原上野田遺跡が所在しており、奈良時代の集落跡が確認されている。この遺構は試掘調査の結果、西側には広がらないことが確認されていた。今回、遺跡北側の状況を調査する機会を得たが、遺構は検出できなかった。ただし、耕土直下が地山であることから、包含層等が過去に削平されてしまった可能性も考えられるため、今後継続して調査する必要がある。



82.4 m



- 1 暗褐色(10YR3/4)シルト質粗砂(新土)
- 2 オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト質粗砂(旧新土)
- 3 黄褐色(7.5YR7/8)シルト質粗砂(地山)

土層図



調査地点全景 (西から)



機械掘削



作業風景



T1 (西から)



埋め戻し状況



埋め戻し後状況

2.5. 西田原辻ノ前遺跡 (第4次)

所在地 神崎郡福崎町西田原1426-1他
事業名 個人住宅新築工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 4㎡
調査期間 平成30年12月14日(金)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成30年12月5日(水)付けで、工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における宅地造成にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成30年12月14日(金)に確認調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

遺跡は市川東岸に位置し、地形区分上は低位の段丘面に位置付けられる。

当遺跡は3回調査が行われており、平成20年度の第1次調査でピットが確認され、中世の須恵器が出土している。平成25年度の第2次調査でもピットが確認され、7世紀後半の須恵器が出土している。今回の調査区は第1次調査の西側に接している。

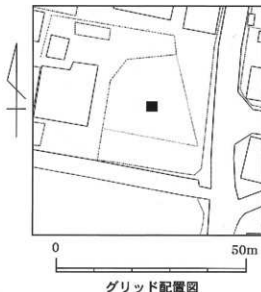
○調査の概要

G1

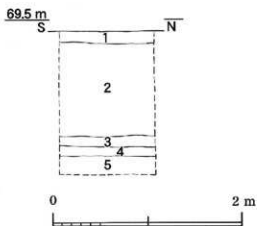
建物建設予定地にグリッドを設定した。5層から成っている。第1層は碎石、第2層は造成土、第3層は旧耕土で暗灰黄シルト質細砂、第4層は黄褐シルト質細砂、第5層はオリブ褐礫層である。遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

調査地点の東側で中世の遺構が確認されているが、今回の調査では安定した面及び遺物は確認されなかった。また、平成29年度に実施した当遺跡南側の店舗新築遺跡工事に伴う試掘調査で遺構、遺物ともに確認されなかったことから、遺跡の南西側には遺構が広がっていないと考えられる。



グリッド配置図



- 1 砕石
- 2 造成土
- 3 暗灰質(2.5Y4/2)シルト質細砂(旧耕土)
- 4 黄褐(2.5Y 5/3)シルト質細砂
- 5 オリーブ褐(2.5Y4/3)硬層

土層図



調査地点全景（東から）



機械掘削



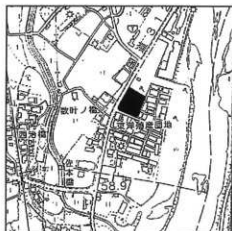
G1（東から）



埋め戻し後状況

2.6. 西治字市川端試掘

所在地 神崎郡福崎町西治字市川端2番9他
事業名 倉庫新築工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 8㎡
調査期間 平成31年1月5日(火)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

倉庫新築工事に伴って遺跡照会があり、工事予定箇所が自然堤防上に位置しており周辺の遺跡の状況が不明であることから、試掘調査の必要性を伝えた。それを受けて平成30年12月19日(水)付で工事主体者から予備調査依頼書が提出され、協力を得て平成31年1月15日(火)に試掘調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は市川の右岸に位置し、地形区分上は自然堤防に位置付けられる。

調査地点の西側に位置する低位段丘面には中世の遺跡として知られる西治数叶ノ西遺跡や弥生時代末から古墳時代にかけての遺跡として知られる西治下代ノ下モ遺跡が存在する。さらに、南西側の低位段丘面には古墳時代中期の古墳と知られる高橋古墳群や佐本古墳、南東側には弥生時代の拠点集落として知られる長目遺跡が存在する。今回の調査地点は自然堤防上に位置することから、遺跡の発見が期待された。

○調査の概要

G1

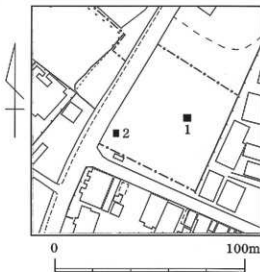
調査地点中央に設定したグリッドである。層序は、第1層は造成土である。
遺構、遺物ともに確認されなかった。

G2

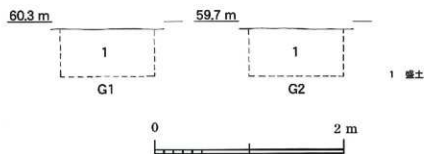
調査地点南西部に設定したグリッドである。層序は、第1層は造成土である。
遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、G1、G2ともに50cm程度掘削したが、遺構面の検出はできなかった。調査地点は地形区分上自然堤防であるが、造成土が厚く、地元の方によると過去に川原石等は撤去され、2m以上の造成が行われているとのことであった。西側に面する国道から西に向かって地形は下がっており、調査地点東側は宅地で市川に向かって地形は下がっている。周辺ではすでに旧の地形は改変されているものと思われる、工事に支障はないと判断する。



グリッド配置図



土層図



調査地点全景（南から）



調査地点全景（西から）



機械掘削



G1（西から）



作業風景



G2（東から）

2.7. 南田原条里遺跡 (第45次)

所在地 神崎郡福岡町南田原字前田2389番2
事業名 個人住宅新築工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 4㎡
調査期間 平成31年1月21日(月)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成30年12月17日(月)付で、工事主体者から周知の埋蔵文化財包蔵地内における個人住宅新築工事にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成31年1月21日(月)に確認調査を行った。

○調査の概要

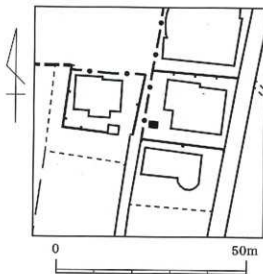
G1

建物建設予定地ほぼ中央にグリッドを設定した。6層から成っている。第1層は碎石、第2層は造成土、第3層は耕土、第4層は床土で褐シルト質中砂、第5層はオリーブ褐シルト質細砂、第6層は暗褐シルト質極細砂である。第5層から須恵器片が出土したが、流れ込みによるものと考えられる。

遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

南田原条里遺跡内では近年の開発に伴い、弥生時代から中世の遺跡が所在することが明らかになりつつあり、遺跡南側で実施した10次調査では弥生時代の溝が見つかるなどの成果を得ていたため、遺構の広がりを確認することが期待できた。しかし、今回の調査地点では顕著な遺構が確認されなかったことから、遺構の希薄な部分であると言える。



グリッド配置図



- 1 砕石
- 2 造成土
- 3 粘土
- 4 褐(10YR4/6)シルト質中砂(床土)
- 5 オリーブ褐(2.5Y4/4)シルト質細砂
- 6 暗褐(10YR3/3)シルト質微細砂

土層図



調査地点全景 (東から)



機械掘削



作業風景



G1 (南から)

28. 北野散布地 (第7次)

所在地 神崎郡福岡町西田原字向下広岡965-1
事業名 宅地造成工事
調査担当 樋口 碧、渡辺 昇
調査面積 4㎡
調査期間 平成31年1月21日(月)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

平成31年1月18日(金)付けで、工事主体者の代理人から周知の埋蔵文化財包蔵地における宅地造成工事にかかる第93条の発掘届出が提出された。平成31年1月21日(月)に確認調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、市川東岸に位置し、市川ならびに支流である雲津川によって形成された段丘面にあたる。調査の結果、北西部には礫層が出ていることから、南東から北西に向けて大きく傾斜していた地形であることが窺える。水田開発によって段丘面の高い部分が削平されたと思われる。

北野散布地は平成8年度に分布調査が実施され、広い範囲で遺物が採集され、濃密な遺物分布が確認された。当該地もその時に遺物が採集されている。須恵器・土師器が多く、古代を中心とする遺跡と思われていた。第1次調査では遺物は出土したが明確な遺構は確認されなかった。北西に位置する上大明寺遺跡では弥生時代の竪穴住居や墓が調査されており、今回の調査区との関連が想定される。調査地点の西側の筆で行った第4・5次調査では、弥生時代後期から平安時代までの遺構が確認された。弥生後期は竪穴住居と掘立柱建物の両者が確認された。

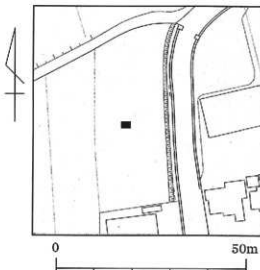
○調査の概要

G1

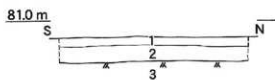
建物建設予定地に設定したグリッドで、第1層は耕土、第2層は暗褐色シルト質中砂、第3層は地山である。地山が遺構面で、ビット1基が確認された。遺物は検出されなかった。

○まとめ

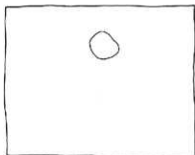
今回の調査地点のすぐ西側の筆で遺構が確認されていることから、当該地でも遺構が確認されることが期待され、今回の調査ではビット1基が確認された。道を挟んだ東側の調査では遺構は確認されていない。当該地点が遺跡の東端と考えられる。



グリッド配置図



- 1 粘土
- 2 埋戻(10YR3/3)シルト質中砂
- 3 地山



遺構図



調査地点全景 (南東から)



作業風景



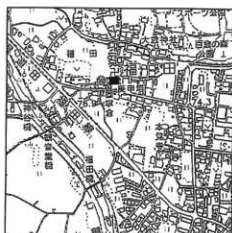
G1 (東から)



埋め戻し状況

29. 福田字中垣内試掘

所在地	神奈川県福崎町福田字中垣内
事業名	公民館新築工事
調査担当	樋口 碧、渡辺 昇
調査面積	15.5㎡
調査期間	平成31年2月18日(月)～22日(金)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

福田区公民館新築工事に伴って遺跡照会があり、工事予定箇所が福田無量寺跡に近接していることから、試掘調査の必要性を伝えた。それを受けて平成31年2月13日(水)付けで工事主体者の福田区長から予備調査依頼書が提出され、協力を得て平成31年2月18日(月)～22日(金)に試掘調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

調査地は市川西岸に位置し、地形区分上は低段位丘面に位置している。周知の遺跡は西に近接して福田無量寺跡がある。そこからは昭和53年の固牢倉解体修復工事に瓦が多量に出土しており、また、調査地点の北西の字名が無量寺であることから古代寺院跡が近接して所在する可能性が高い。

○調査の概要

基本層序は、第1層は碎石、第2層は黄褐シルト質粗砂(版築状の層)で現代の瓦や礫等を多く含んでいる。第3層は褐シルト質粗砂、第4層は暗褐シルト質粗砂で瓦を含み、第5層は地山である。

T1

現公民館の東側に隣接する阿弥陀堂、庚申堂と平行に南北1m、東西9.5mのトレンチを設定した。

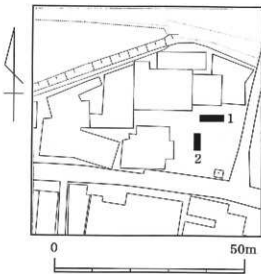
遺構面は2面ある。上層は近現代のゴミ穴と考えられる2基の遺構があり、ともに古代～中世の瓦を含む。東側のものをSX01、西側のものをSX02とした。SX02はSX01より新しい。

下層からは土坑(SK01)、ピット(SP01)、落ち込み(SX03)、瓦溜まり(SX04)が検出された。SP01は方形で1辺約50cm、深さ7cmを測る。SK01は南北に100cm以上、東西に84cm、深さ10cmを測る。SX04は地山面から約20cm掘り込まれており、円形状に瓦が溜まっている。SX03は西に向かって25cm下がる。ここからも古代の瓦や土師器片が出土した。

T2

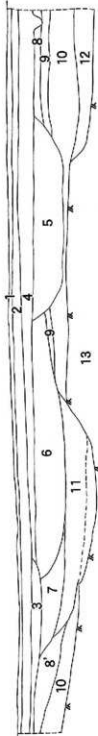
T1の西端から直行して南北5m、東西1.2mのトレンチを設定した。

遺構はピット(SP02)1基、T1で確認されたSX01と同じ掘り込みの一部が検出された。端部であり、深さは8cm程度である。SP02は1辺43cmで、深さは4cmを測る。SX03からは古代の瓦が出土した。



トレンチ配置図

77.3 m



トレンチ 1

- 1 砕石
- 2 腐土 山土、円礫多く含む
- 3 礫(10YR4/4)粗砂～中砂
- 4 腐礫層 によく黄褐(10YR4/3)細砂と黒褐(10YR3/2)シルト質微細砂の互層
- 5 互層 1 (瓦と円礫層)
- 6 互層 2 (瓦と礫～円礫主体だが角礫混じる、暗褐(10YR3/3)細砂入る)
- 7 8層に互層じった層
- 8 黒(10YR2/1)シルト質微細砂 炭・粘土含む
- 8' 黒(10YR2/1)シルト質微細砂 炭・粘土含まない
- 9 灰黄褐(10YR4/2)微細砂

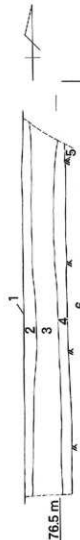


上層

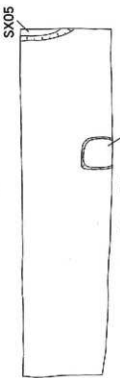
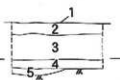


下層

トレンチ 1



76.5 m



トレンチ 2

- 10 黒褐(10YR3/2)微細砂 礫含む
- 11 暗褐(10YR3/3)微細砂 礫・瓦含む
- 12 黒褐(10YR3/1)細砂 地山土混じる
- 13 黄褐(2.5Y5/3)シルト質微細砂 礫含む(地山)

トレンチ 2

- 1 砕石
- 2 黄褐(2.5Y5/4)シルト質粗砂
- 3 礫(10YR4/4)シルト質粗砂 5cm大礫含む、瓦含む
- 4 暗褐(10YR3/4)シルト質粗砂 5cm大礫まれに含む
- 5 暗褐(10YR3/4)シルト質粗砂 古瓦含む
- 6 黄褐(10YR5/6)シルト質粗砂 10cm以下角礫含む(地山)



透構図

○遺物の概要

遺物は、コンテナ15箱分出土している。土師器、須恵器、陶器、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、輪の羽口が出土している。土器及び瓦については残存状況の良好な資料を図化した。輪の羽口は写真を掲載した。

土器

T1のSX01及びT2のSX05出土土器のうち12点を図化した。

1～3はSX05から出土した土師器小皿、皿、杯である。中世ころのものと考えられる。

4～11はSX01から出土した須恵器である。4は須恵器椀で、口縁部は丸くおさめる。5は須恵器杯で、口縁部は丸くおさめ、重ね焼き痕がこのころ。6は須恵器椀の底部で糸切痕がこのころ。7、8は須恵器甕の胴部である。いずれも外面調整は平行タタキ、内面調整はロクロナデである。9は壺の胴部で、突帯を有する。10は須恵器鉢の底部である。11は須恵器鉢の口縁部で肥厚している。12は備前焼鉢の口縁部である。

軒丸瓦

3点図化した。1は重圏文軒丸瓦である。瓦当の外区を欠く。二重の圏線があり、外区と圏線の間には8つ、中房と圏線の間には6つ、圏線と圏線の間には8つの珠文を配していたと推察できる。中房は磨滅が激しく、珠文の有無は不明である。外側の重圏と外区の間隔は均等でない。嵌め込み式法により製作されたと考えられ、色調は橙褐色を呈し、焼成は不良である。

2は瓦当面の1/3程度しか残存していないが、三巴文軒丸瓦である。右巻きでほぼ等間隔に珠文が配されていることから、16個の珠文が巡っていたと考えられる。断面は半円形である。巴頭は勾玉状で、断面は半円形を呈する。一本造り法で制作されたと考えられる。いぶし瓦である。

3は瓦当面が1/6程度しか残存していないが、花卉の一部が観察できる。いぶし瓦である。

軒平瓦

7点図化した。4～10は唐草文軒平瓦である。中心飾に蓮と思われる花、その両側には唐草と蓮の側面観が表現されている。4～8は同一の文様と考えられる。磨滅が激しいものもあり、同範かの判断がつかない。4～6の内面は布目痕、外面は縄目印である。7、8の内面は布目痕、外面は格子印である。6の凹部に斜め方向の布の縦じ合わせ目があることから、桶巻き造りで製作されたと考えられる。他の瓦については痕跡が観察できないため判断できない。

9は、瓦当面が4～8と異なる。中心飾には4枚の花弁、そこから両側に4～8とは異なる唐草文が表されている。また、瓦当面には界線が存在する。10は内区と下外区が残存している。須恵質の瓦である。水波文がみられる。

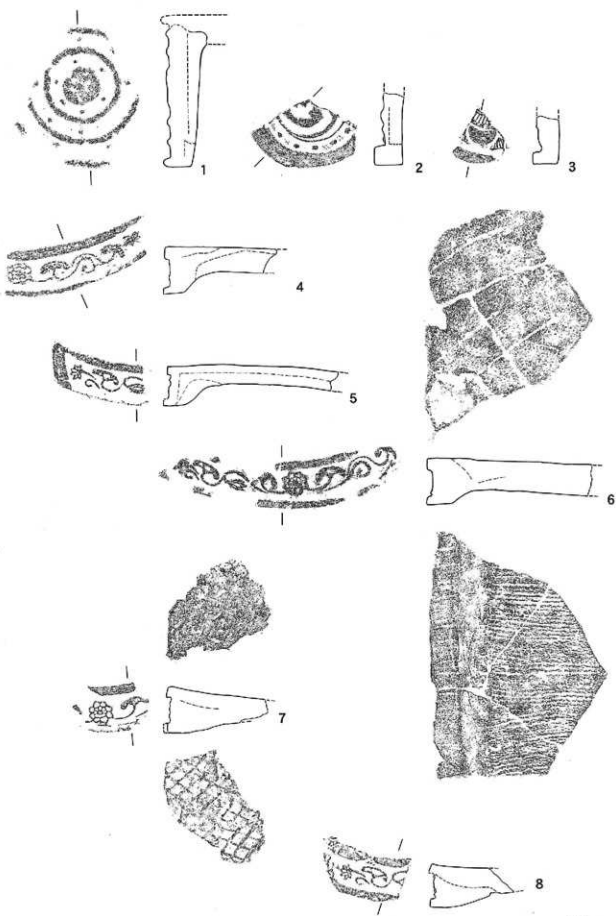
丸瓦

2点図化した。11はいぶし瓦で、凸面に文字が刻まれている。欠損しているため、全体の判読はできないが、「八三才」と読むことができる。12もいぶし瓦で、凸面に文字が刻まれている。11と同様に欠損しているため全体の判読はできないが、「大夫」と読むことができる。

平瓦

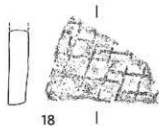
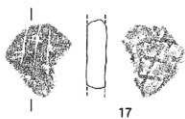
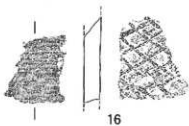
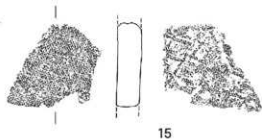
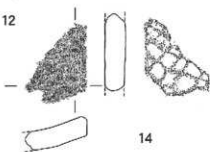
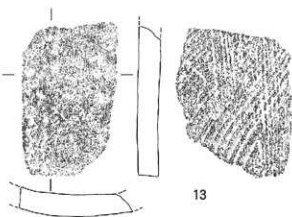
6点図化した。13は外面のタタキに縄巻叩板が用いられている。縄の条は5本/3cmほどである。14～18は格子目が刻まれた刻線叩板が用いられている。磨滅が激しいものがあるため、数は判断できないが、格子目が刻まれた叩板は少なくとも2種類用いられている。各辺が1.4cm×1.5cm程度の斜格子目を刻んだものと各辺が1.6cm×1.9cm程度の斜格子目を刻んだものである。それぞれの斜格子の大きさは統一されていない。平行四辺形はいずれも右上がりである。

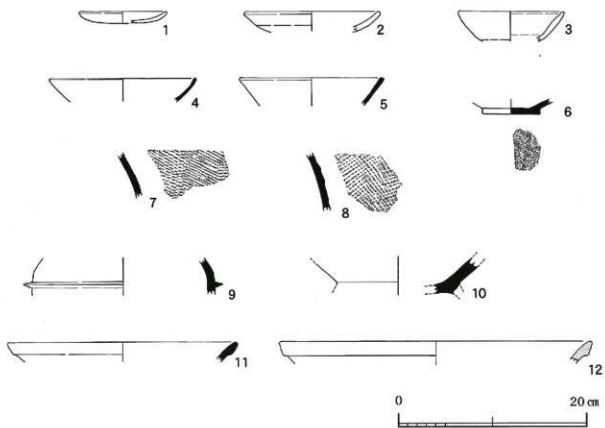
凹面はいずれも布目痕があるが、17のみ木の痕跡が残る。桶巻き造りで製作されたと考えられる。



遺物実測図







遺物実測図

輪の羽口

T2のSX05から出土した。残存長9.4cmで、直径7.4～8.0cmの不整円形を呈する。土師質で赤褐色を呈する。内部の調整、厚みについては不明であるが、外面はヘラ削り痕跡がみられる。両側が欠損している。

○まとめ

今回の試掘調査で、地山面でピットや土坑等が検出され、T1の下層瓦溜まりからは多量の瓦が出土した。昭和53年に、敷地内に所在する固寧倉の解体修理の際に多数の瓦の出土が知られている。その一部は『福崎町史』で紹介されており、今回の調査で『福崎町史』掲載の重圏文軒丸瓦と同じ瓦が出土した。また、同様にいぶし瓦の巴文瓦も出土しており、今回の調査で出土した瓦の年代も、年代幅があることが明らかとなり、「一定期間存続した建造物があったことを推察」という『福崎町史』の考察と違わない。

出土した土器は、平安時代から中世のものを中心である。柱穴と思われるピットが2基確認されており、出土した土器の年代が建物の年代を示すものとは限らないが、おおよそこの時期に土器とともに瓦が廃棄されたものと考えられる。したがって、瓦を伴う建物が存在していた時期は中世以前である可能性が考えられる。

なお、重圏文軒丸瓦は奈良時代後半頃のものと考えられるが、今回の調査では奈良時代の遺物は確認されていない。

調査の結果、現在固寧倉の範囲が周知の埋蔵文化財包蔵地であるが、この遺構が広がることが明らかとなった。

今後は周知の埋蔵文化財包蔵地の変更について県教委に報告し、公民館新築工事によって遺構に影響がある箇所については第93条の届出をもって対応する。



昭和53年出土瓦

軒丸瓦一覽

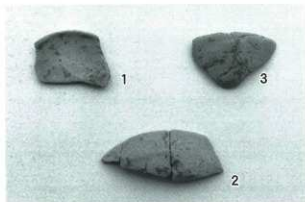
番号	遺構	器種	法量(cm)			調整		備考
			瓦当直径	巾	厚み	外	内	
1	SX03	軒丸瓦	残13.9	残15.0	3.6	ヘラケズリ	ナデ	
2	SX01	軒丸瓦	残8.3	残11.7	2.9	ヘラケズリ	ヘラケズリ・布目	いぶし瓦
3	SX01	軒丸瓦	残6.0	残5.1	2.7		ナデ	いぶし瓦

軒平瓦・丸瓦・平瓦一覽

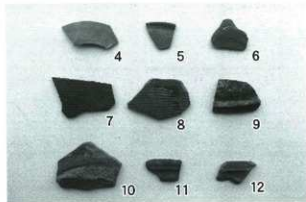
番号	遺構	器種	法量(cm)			調整		備考
			長さ	巾	厚み	外	内	
4	SX04	軒平瓦	残11.9	残15.0	5.0	縄目タタキ	ナデ・布目	いぶし瓦
5	SX04	軒平瓦	残18.0	残10.0	4.3	縄目タタキ・スス付着	布目・砂付着	
6	SX01	軒平瓦	残17.6	残24.5	4.9	縄目タタキ・ナデ	布目・板の痕跡	
7	SX04	軒平瓦	残10.7	残11.8	5.0	格子タタキ	布目・木の跡あり	須恵質
8	SX01	軒平瓦	残9.3	残10.0	4.5	ヘラケズリ・格子タタキ	布目	須恵質
9	SX01	軒平瓦	残9.0	残11.4	5.7	タタキ・布目痕 ^h	布目・指ナデ	須恵質
10	SX01	軒平瓦	-	残6.2	2.1		ヘラケズリ	
11	SX01	丸瓦	残10.3	残10.0	2.9	ヘラケズリ	ナデ ^e	文字あり
12	包含層	丸瓦		残5.6		ヘラケズリ		文字あり
13	包含層	平瓦	残15.8	残12.0	2.3	縄目タタキ	布目・粘土層目あり	
14	SX04	平瓦	残8.2	残7.0	2.15	格子タタキ	布目	
15	包含層	平瓦	残8.9	残9.1	2.5	格子タタキ	布目	
16	SX01	平瓦	残9.0	残7.3	1.8	格子タタキ・ハケメ	布目	
17	SX04	平瓦	残7.3	残7.0	2.1	格子タタキ	布目・木の痕跡 ^h	
18	SX04	平瓦	残7.9	残12.2	2.0	格子タタキ	布目	

遺物観察表

番号	種別	器種	遺構	法量(cm)			調整		備考
				口径	器高	底径	外	内	
1	土師器	小皿	SX05	(9.0)	1.25	(6.0)	未調整	ヨコナデ	
2	土師器	皿	SX05	(14.0)	残2.15	-	ヨコナデ	ヨコナデ	
3	土師器	杯	SX05	(11.0)	残3.2	-	ヨコナデ	ハケメ	
4	須恵器	碗	SX01	(15.0)	残3.0	-	ロクロナデ	ロクロナデ	重ね焼き痕あり
5	須恵器	杯	SX01	(15.0)	残2.5	-	ロクロナデ	ロクロナデ	
6	須恵器	碗	SX01	-	残1.6	(6.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	底面糸切り
7	須恵器	壺	SX01	-	残4.5	-	平行タタキ	ロクロナデ	
8	須恵器	壺	SX01	-	残6.2	-	平行タタキ	ロクロナデ	
9	須恵器	壺	SX01	(21.0)	残4.0	-	ロクロナデ	ロクロナデ	
10	須恵器	鉢	SX01	-	残3.6	(13.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	貼り付け高台
11	須恵器	鉢	SX01	(24.0)	残2.5	-	ロクロナデ	ロクロナデ	
12	備前焼	鉢	SX01	(33.0)	残2.4	-	ロクロナデ	ロクロナデ	



出土土師器



出土須恵器・備前焼



調査前



機械掘削



SX01完掘状況（北東から）



SX02完掘状況（北西から）



SP01検出状況



作業風景



SX03（北から）



SX03瓦出土状況（西から）



SX04瓦検出状況



SX04瓦出土状況（北から）



SX04完掘状況



T1南壁（北東から）



T1埋め戻し状況



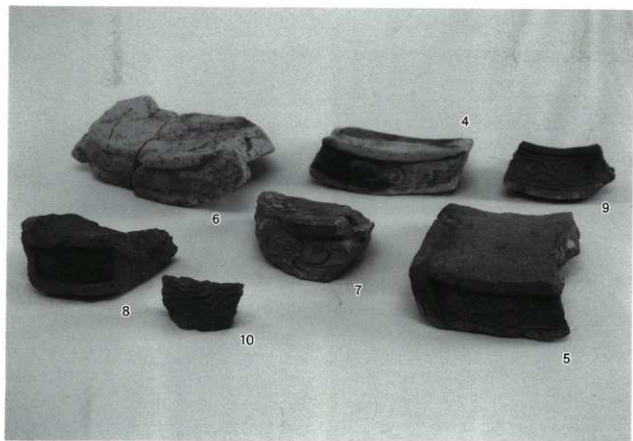
T2（西から）



SX03（左奥）、SP02（右手前）（南から）



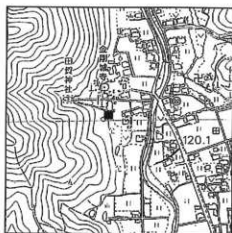
埋め戻し後状況





30. 金剛城寺試掘

所在地	神奈川県福崎町田口236
事業名	金剛城寺倉庫新築工事
調査担当	樋口 碧、渡辺 昇
調査面積	4㎡
調査期間	平成31年3月12日(火)



調査地点の位置(S=1/10,000)

○調査に至る経過

金剛城寺倉庫新築工事に伴う事前調整があり、工事予定箇所が寺院の敷地内であることから、過去の建て替えなどの痕跡等が発見される可能性があったため、平成31年2月20日(水)付けで金剛城寺住職から予備調査依頼書が提出され、協力を得て平成31年3月12日(火)に試掘調査を行った。

○当該地周辺の地理的・歴史的環境

当該地は、金剛城寺の境内に位置する。市川西岸に位置する扇状地にあり、市川の支流である七種川などによって開析された谷部が入り組んでいる。七種川が流れる谷部は奈良時代に創建されたと言われる七種寺があり、広く流域に寺院関連の遺構が広がっていたと思われる。源流周辺の山は播磨国風土記にいう「奈具佐山」の故地と考えられており、七種川源流近くには作門寺が隆盛を極めており、七種川沿いの両岸には多くの平坦面が残存している。作門寺は昭和3年に金剛城寺に改称している。金剛城寺の対岸には田口トツタニ遺跡が所在し、中世の同族墓が14基以上確認された。金剛城寺は新西国三十三所の一つで、巡礼道が通っており信仰の対象となっていた地域であると考えられる。

○調査の概要

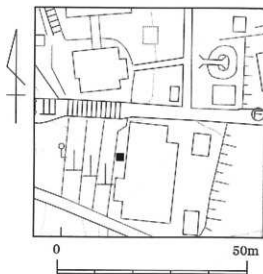
G1

建物中央に設定したグリッドである。層序は、第1層が表土、第2層が地山である。

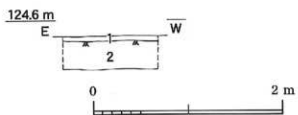
遺構、遺物ともに確認されなかった。

○まとめ

今回の調査では、遺構面の検出はできなかった。西側の山の斜面を切土した箇所、遺構があったとしてもすでに削平されたと思われる。地形の状況から、調査地点から東側に20m程度の箇所は当初の地形を遺しており遺構が所在する可能性が考えられるため、今後も境内の工事等に注意する必要がある。



グリッド配置図



- 1 オリーブ編(2.5Y4/4)シルト質粗砂(黄土)
- 2 にぶい黄編(10YR5/4)シルト質粗砂 30cm大角礫含む(地山)

土層図



調査地点全景(北から)



機械掘削



作業風景



G1(北から)

報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	埋蔵文化財調査報告書
副書名	平成30年度発掘調査報告
シリーズ名	福岡町埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	20
編著者名	樋口 碧・渡辺 昇
編集機関	福岡町教育委員会
所在地	〒679-2280 兵庫県神崎郡福岡町南田原3116-1 TEL 0790-22-0560
発行年月日	2020年9月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 ㎡	要 因
		市町村	遺跡番号					
あがた ぎんざ せき 鍛冶遺跡 (第4次)	あがた ぎんざ せき 兵庫県神崎郡福岡町八千種 字代ノ岡3618番5	28443	410061	34度 55分 37秒	134度 46分 42秒	2018年 4月16日 ～19日	93.1	本調査
あなた なるいり せき 南田原桑里遺跡 (第38次)	あなた なるいり せき 兵庫県神崎郡福岡町南田原 字大塚3035番1	28443	410046	34度 56分 50秒	134度 45分 33秒	2018年 4月25日	4	確認
しんあし しくつ 磐美院試掘	しんあし しくつ 兵庫県神崎郡福岡町東田原 1905	28443		34度 57分 32秒	134度 46分 16秒	2018年 5月9日 10日	14.5	試掘
あち ちんざ せき 八千種字前垣内 しくつ 試掘	あち ちんざ せき 兵庫県神崎郡福岡町 八千種字前垣内2251番	28443		34度 55分 50秒	134度 46分 57秒	2018年 5月29日	4	試掘
あなた なる 南田原 字ナコザ試掘	あなた なる 兵庫県神崎郡福岡町南田原 字ナコザ3042番2	28443		34度 56分 56秒	134度 45分 30秒	2018年 5月29日	4	試掘
あなた なるいり せき 南田原桑里遺跡 (第39次)	あなた なるいり せき 兵庫県神崎郡福岡町南田原 字ナコザ3042番2	28443	410046	34度 56分 56秒	134度 45分 30秒	2018年 6月4日 ～6日	42	本調査
あし け せき 下々遺跡 (第2次)	あし け せき 兵庫県神崎郡福岡町高岡 字大渡914番3他	28443		34度 57分 50秒	134度 44分 27秒	2018年 6月13日	8	確認
あかぞ せき 中溝遺跡 (第2次)	あかぞ せき 兵庫県神崎郡福岡町 福地内	28443		34度 57分 37秒	134度 45分 2秒	2018年 6月13日 8月20日	8.3	試掘 確認
にし たら せき 西田原字上坂 しくつ 試掘	にし たら せき 兵庫県神崎郡福岡町西田原 字上坂1094-4他	28443		34度 57分 23秒	134度 45分 51秒	2018年 7月10日	12	試掘
あなた なるいり せき 南田原桑里遺跡 (第41次)	あなた なるいり せき 兵庫県神崎郡福岡町南田原 字東田2232番1	28443	410046	34度 56分 36秒	134度 45分 32秒	2018年 7月24日	8	確認
あなた なるいり せき 南田原字金垣内 しくつ 試掘	あなた なるいり せき 兵庫県神崎郡福岡町南田原 字金垣内1933番1他	28443		34度 57分 56秒	134度 46分 5秒	2018年 8月22日	20	試掘
にし たら せき 西田原字西広岡 しくつ 試掘	にし たら せき 兵庫県神崎郡福岡町西田原 字西広岡999番1	28443		34度 57分 22秒	134度 45分 55秒	2018年 9月12日	4	試掘
あまの せき 北野敷布地 (第6次)	あまの せき 兵庫県神崎郡福岡町西出原 字向下広岡967番1他	28443	410113	34度 57分 22秒	134度 46分 6秒	2018年 9月12日	8	確認

ふりがな 所収道跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 ㎡	要因
		市町村	遺跡番号					
ちくちく 八千穂 あひのみかしたしくつ 字南ノ下試掘	ちゅうごうひんかんとせきちんかくさきやうちくちく 兵庫県神崎郡福崎町八千穂 あひのみかした びん せん 字南ノ下3852番3	28443		34度 55分 29秒	134度 46分 44秒	2018年 9月18日	8	試掘
ふくだ あぶら せいの 福田字前垣内 しくつ 試掘	ひょうごひんかんとせきちんかくさきやうふくだ 兵庫県神崎郡福崎町福田 あぶら せい せん 字前垣内783番地7	28443		34度 57分 41秒	134度 44分 57秒	2018年 9月26日	4	試掘
みなみはらむらじゆうり いせき 南田原条里遺跡 じ (第42次)	ひょうごひんかんとせきちんかくさきやうみなみはら 兵庫県神崎郡福崎町南田原 あぶら せい せん 字岸ノ上2265-1	28443	410046	34度 56分 36秒	134度 45分 23秒	2018年 10月10日	4	確認
おおの原あまぜいしげきしくつ 大貫字石引試掘	ひょうごひんかんとせきちんかくさきやうおおの原 兵庫県神崎郡福崎町大貫 あまぜいしげき せん 字石引1336番地	28443		34度 57分 2秒	134度 47分 48秒	2018年 10月15日	8	試掘
おおの原あまぜいしげきしくつ 大貫字小角試掘	ひょうごひんかんとせきちんかくさきやうおおの原 兵庫県神崎郡福崎町大貫 あまぜいしげき せん 字小角	28443		34度 56分 34秒	134度 46分 54秒	2018年 10月23日	4	試掘
せり 下遺跡 じ (第1次)	ひょうごひんかんとせきちんかくさきやうせり 兵庫県神崎郡福崎町大貫 あまぜいしげき せん 字下り、和田	28443		34度 56分 48秒	134度 47分 24秒	2018年 10月23日	16	確認
しみず 清水遺跡 じ (第3次)	ひょうごひんかんとせきちんかくさきやうしみず 兵庫県神崎郡福崎町山崎 せん 618-1他	28443	410052	34度 57分 51秒	134度 45分 13秒	2018年 11月14日	4	確認
みなみはらむらじゆうり いせき 南田原条里遺跡 じ (第43次)	ひょうごひんかんとせきちんかくさきやうみなみはら 兵庫県神崎郡福崎町南田原 あぶら せい せん 字川田2999-2	28443	410046	34度 56分 40秒	134度 45分 29秒	2018年 11月14日	4	確認
みなみはらむらじゆうり いせき 南田原条里遺跡 じ (第44次)	ひょうごひんかんとせきちんかくさきやうみなみはら 兵庫県神崎郡福崎町南田原 あぶら せい せん 字東角3103番7	28443	410046	34度 56分 56秒	134度 45分 30秒	2018年 11月19日	4	確認
かじや 加治谷兼前遺跡 じ (第3次)	ひょうごひんかんとせきちんかくさきやうかじや 兵庫県神崎郡福崎町東田原 あまぜいしげき せん 字前田1734番	28443	410108	34度 57分 35秒	134度 46分 38秒	2018年 12月4日	4	確認
あしたの原あまぜいしげき 東田原字掛上がり しくつ 試掘	ひょうごひんかんとせきちんかくさきやうあしたの原 兵庫県神崎郡福崎町東田原 あまぜいしげき せん 字掛上がり911-1	28443		34度 57分 15秒	134度 46分 5秒	2018年 12月4日	2	試掘
にしはらむらじゆうり 西田原址ノ前遺跡 じ (第4次)	ひょうごひんかんとせきちんかくさきやうにしはら 兵庫県神崎郡福崎町西田原 せん 1426-1他	28443		34度 57分 2秒	134度 45分 42秒	2018年 12月14日	4	確認
いしげき 西治字市川端 しくつ 試掘	ひょうごひんかんとせきちんかくさきやういしげき 兵庫県神崎郡福崎町西治 あぶら せい せん 字市川端2番9他	28443		34度 56分 36秒	134度 44分 45秒	2019年 1月5日	8	試掘
みなみはらむらじゆうり いせき 南田原条里遺跡 じ (第45次)	ひょうごひんかんとせきちんかくさきやうみなみはら 兵庫県神崎郡福崎町南田原 あぶら せい せん 字前田2389番2	28443	410046	34度 56分 34秒	134度 45分 14秒	2019年 1月21日	4	確認
きたの原あまぜいしげき 北野敷布地 じ (第7次)	ひょうごひんかんとせきちんかくさきやうきたの原 兵庫県神崎郡福崎町西田原 あぶら せい せん 字向下広岡965-1	28443	410113	34度 57分 20秒	134度 46分 7秒	2019年 1月21日	4	確認
ふくだ あぶら せいの 福田字中垣内 しくつ 試掘	ひょうごひんかんとせきちんかくさきやうふくだ 兵庫県神崎郡福崎町福田 あぶら せい せん 字中垣内	28443		34度 57分 49秒	134度 44分 49秒	2019年 2月18日 ～22日	15.5	試掘
じんごうじゆうり 金剛城寺試掘	ひょうごひんかんとせきちんかくさきやうじんごう 兵庫県神崎郡福崎町田口 せん 236	28443		34度 59分 2秒	134度 43分 30秒	2019年 3月12日	4	試掘

2020年9月30日 印刷

2020年9月30日 発行

埋蔵文化財調査報告書
平成30年度発掘調査報告
福岡町埋蔵文化財調査報告20

編集・発行 兵庫県神崎郡福岡町南田原3116-1
福岡町教育委員会

印刷 クリヤ印刷所

